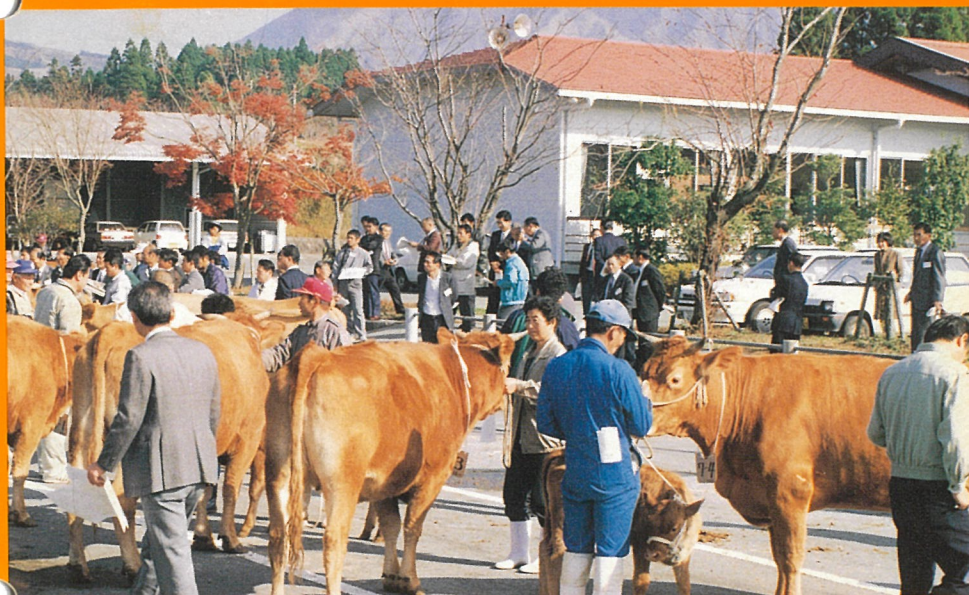


# あか牛

No.65



(あか牛全国研究会・熊本県高森町、南阿蘇畜協)

1993.1

社団法人日本あか牛登録協会



創立40周年記念式典



本会長表彰状贈呈（本会元理事・元熊本県矢部支部長 国武 博氏）

# あ か 牛

(第65号)



1993. 1

---

## 目 次

○年 頭 挨 拶

会長 續 省三…… 2

○褐毛和種の母方祖父種雄牛と種雄牛の組み合わせと産肉性

農林水産省草地試験場山地支場 寺田 隆慶…… 4

○支部だより(第13回熊本県肉畜共進会成績から)……熊本県支部……21

○会 報……30

○あか牛 HOT NEWS ……61

○子牛市況……66

# 年 頭 挨 拶

会 長 續 省 三

## ◎ あか牛の安定活性化対策の要請

平成3年4月からの牛肉輸入自由化は、肉用牛の生産から流通消費の各方面にわたり、当初の予想を越える大きな影響を及ぼしています。あか牛についても、子牛価格が下落し、平成4年の秋期からは、かなりの低下がみられ、本協会会員である繁殖農家や協会関係者は大きな損失を受け、将来について不安を抱いている状況にあります。

このような状況を反映して、平成4年末には、あか牛の登録頭数は30%を超える減少をみており、誠に厳しい事態に至ったと憂慮しております。

当局では、平成4年度において、「地方特定品種緊急総合活性化対策」を仕組み、この中で子牛1頭当たり1万5千円以内の資源確保奨励金を交付されることになりました。またこのほか、市場活性化対策や子牛販路拡張対策等の各種の事業を併せて行うこととされました。さらに、熊本県では畜産物価格安定基金協会が独自に交付金を交付するほか、県単で交付金の上乗せを実施されるなど、あか牛のため、関係県、農業団体が苦しい財源の中で支援策を実施されており、こゝに心からの感謝を申し上げたいと存じます。

現行の肉用子牛生産者補給金制度では、保証基準価格30万4千円、合理化目標価格26万7千円となっておりますが、あか牛は「黒毛和種及び褐毛和種」の区分に入っているため、黒毛和種の価格との関係で、交付金が出ないことになり、あか牛関係者から、黒毛和種と褐毛和種の区分を分離するよう、強い要望が出ており、本協会としても、基本的には分離して、交付金の交付が行われる必要があると考え、当局や関係方面に

要望をしております。

黒毛和種と褐毛和種の区分を分離すれば、これに伴う夫々の保証基準価格や合理化目標価格の水準がどうなるのか、また、地方特定品種緊急総合活性化対策の奨励金がどうなるか、さらに、独自の奨励事業が価格との関連で仕組まれる可能性はないかなど、多くの問題が派生し、この3月末の畜産物価格決定まで検討されることと考えます。本協会としては、会員の皆様とともに、あか牛の実情を関係方面に十分に訴え、最善策を講じて頂くよう要請努力をいたしたいと考えております。

### ◎ 登録規程改正による肉質改良促進

本協会では、あか牛の肉質改良を最優先課題として取り組み、このうち、肉質改良の速度を早めるための科学的手法として超音波測定器の開発と、これの利用技術の向上に努めて参りました。と殺前の測定と枝肉格付成績と比較して、80%程度の適合が得られることが実証できました。さらに、登録牛を超音波で測定し、その脂肪交雑値と、その産子の枝肉成績との関係を調査したところ、極めて強い相関があることが判明しました。従って肉質の良い雌牛の産子を後継牛として保留に努力すれば、肉質改良の速度を急速に早めることが出来るわけであります。

これらの成果を登録制度にいかん反映させるとよいか、中央審査委員会に諮りましたが、登録時に超音波測定を行って肉質判定を行うことを含め、登録規程の改正を早急に行うことが重要であるとされ、これについて、当局に承認協議を進めております。

あか牛を巡る事態は極めて厳しく、肉質改良のスピードアップこそがあか牛の生き残りの戦術であります。あか牛の肉質を改良し斉一化を図れば、あか牛が本来持っている粗飼料の利用性、増体能力や経済性などの長所が併せて評価され、土地利用型畜産の主体になると期待してよいであります。このための科学的手法も採り入れた登録規程の改正と、その早期実施を図ることといたしますので、本会会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

# 褐毛和種の母方祖父種雄牛と種雄牛 の組み合わせと産肉性

農林水産省草地試験場山地支場

寺田 隆慶

## はじめに

近年の枝肉市場は肉質重視の傾向がより鮮明となってきている。これを受けて、肥育素牛の選定に当たっても血統を重視して購入する血統買いが多くなってきた。子牛市場の出荷牛名簿も父（種雄牛）とともに、母方の雄方祖先が数代から5代まで記載され、血統情報を提供している。

一方、肥育篤家の間では、ある種雄牛と特定の種雄牛を父方にもつ母牛と交配して生産された息牛に優れた肉質がでる、高い可能性があると思われている。このような現象は、遺伝的には父方と母方の遺伝子の相加効果とみられる。

本調査は、ある種雄牛を父にもつ母牛がいるときに、現在供用されてるどの種雄牛と交配したときに優れた肉質の子牛（息牛）を多く生産するかを、肥育農家サイドのデータを調査して明らかにする目的で実施したものである。

## I . 調査牛の概要

本調査の対象は、熊本県内のW畜産農業組合の圏内から1985年から1990年までの6年間に出荷された2,080頭である。出荷牛の脂肪交雑は日格協の職員あるいは前記組合の技術者が日格協に準拠して評価した。

### 1 . 年次較差

調査牛は前記のように6年間にW畜産農業組合圏内から出荷された去勢肥育牛である。そこで、あらかじめ各調査形質の年次較差を明らかにしておく必要があり、出荷月や肥育地区を無視して、各年次の平均値を求めた（表1）。

調査牛2,080頭の単純平均で、肥育開始時月齢が9.6月、同体重315kg、日齢体重を求めると1.08kgとなる。また、生時体重を35kgとして求めた肥育開始（市場出荷）までの日増体量は0.96kgとなるから、子牛市場に出荷されるまで

表1 調査牛の概要（未修正平均）

項 目	調 査 年 度						全体
	85	86	87	88	89	90	
調査頭数, 頭	132	291	393	382	372	510	2080
開始月齢, 月	9.9	10.1	9.7	9.5	9.6	9.5	9.6
開始体重, kg	311	318	311	311	318	316	315
屠殺月齢, 月	23.0	23.0	22.9	22.7	22.9	23.1	22.9
終了体重, kg	685	708	709	722	730	736	720
肥育日数, 日	396	393	403	397	403	413	403
肥育日増 <sup>1)</sup> , kg	0.94	0.99	0.99	1.03	1.02	1.01	1.00
生後DG <sup>2)</sup> , kg	0.93	0.96	0.97	1.00	1.00	1.00	0.98
枝肉重量, kg	410.6	424.1	423.5	434.0	441.5	444.4	433.0
枝肉歩留, %	64.6	64.4	64.1	64.5	64.9	64.7	64.5
日増加額 <sup>3)</sup> , 円	916	939	861	775	760	748	814
脂肪交雑 <sup>4)</sup>	0.68	0.63	0.59	0.83	0.93	0.99	0.81
枝肉単価, 円	1572	1622	1692	1695	1717	1700	1682
導入価格, 万円	26.4	29.9	35.0	40.5	43.1	43.0	38.2
販売価格, 万円	62.7	66.8	69.6	71.4	73.6	73.4	70.8

<sup>1)</sup>肥育期間のDG（日増体量），<sup>2)</sup>生時から肥育終了までのDG，<sup>3)</sup>（販売価格－導入価格）/肥育日数，<sup>4)</sup>日格協準値

の発育は肉用牛としても極めて良好である。

肥育日数は403日、13か月強である。屠殺月齢は22.9か月、肥育終了時の体重（終了体重）が720kg、肥育期間の日増体量（肥育日増体）が1.00kgである。これもまた肉専去勢牛の肥育期間の日増体量としては優れた数値である。

次に、肉質。日格協による格付基準が'88年に変更されたこともあって、本稿で取りあげた肉質の項目は脂肪交雑の評価のみである。後述するように、枝肉単価と脂肪交雑の評価とは密接に関連しているので、本稿の主旨である母牛の父（種雄牛；以下では単に母方種雄牛という）と種雄牛の組み合わせから肉質を見極めるような場合には、肉質を脂肪交雑のみの指標で評価しても大きな間違いはないと、考えられる。なお、以後に用いる脂肪交雑は、前記評価に”プラス”、”マイナス”がついている場合にはそれぞれに0.3及び-0.3を加えて評点とした。こうして求めた脂肪交雑の総平均は0.81であるから”1-”前後

ということになる。 枝肉単価は 1,682円であり、1頭当りの販売価格70.8万円、肥育期間の日増加額では 814円であった。

各項目ごとの年間較差では(表1)、予想どおり脂肪交雑に年次較差が認められ、88年以降は目立って脂肪交雑が良くなっていた。一方、(肥育)開始体重、同月齢や肥育期間などには大きな変化は認められない。肥育日増体(kg/日)、導入価格及び販売価格は脂肪交雑とともに年度が下がるにしたがって良好あるいは高価格となった。また、(肥育)終了体重、枝肉重量、日増加額、枝肉単価の各項も年次較差が認められた。

このような年次変化のなかで興味がそゝられたのは日増加額の変化である。導入価格とは明らかに逆相関があり、導入価格が高くなると日増加額が低くなるからである。

## 2. 種雄牛の変遷

本調査牛の総数は 2,080頭であることは既に述べたとおりである。調査牛の父親(種雄牛)の総数は63頭であった。これらの種雄牛のなかで息牛が 100頭以上(調査牛の約3%以上)含まれていたのは、第十重川(367)、光重川(223)、第三光丸(163)、第二光泉(159)及び竜花(118)、重隆(111)である。次いで第八光丸(94)、光誉(88)、第二光丸(80)、第二重光(69)、菊重川(58)球月(54)及び第八光武などが多く、往年の銘種雄牛と謳われた光武の息牛も39頭含まれている。上位種雄牛6頭(種雄牛頭数の約10%)で調査牛の55%を

表2 年度別の使用頻度の多い種雄牛ベスト5\*

年度	調査頭数	種雄牛ベスト5				
		1	2	3	4	5
85	132	第十重川 <sup>3</sup>	第二光泉 <sup>2</sup>	第二光丸 <sup>1</sup>		
86	291	第十重川 <sup>4</sup>	第二光泉 <sup>1</sup>	第二光丸 <sup>1</sup>	竜花 <sup>1</sup>	
87	393	第十重川 <sup>2</sup>	光重川 <sup>1</sup>	竜花 <sup>1</sup>		
88	382	第十重川 <sup>1</sup>	光重川 <sup>1</sup>	菊重川 <sup>1</sup>		
89	372	第八光丸 <sup>1</sup>	重隆 <sup>1</sup>	光重川 <sup>1</sup>	第三光丸 <sup>1</sup>	光誉 <sup>1</sup>
90	510	第三光丸 <sup>1</sup>	第八光武 <sup>1</sup>			

\*種雄牛名にある肩付数字は該年度の調査頭数に占める当該種雄牛の息牛の割合(例えば<sup>2</sup>は20%台)。10%以上の種雄牛のみ。



占めており、如何に特定の種雄牛に集中した交配が行われているか分かります。というものである。

種雄牛の利用頻度の年次変化をみたのが表2である。同表から、年次が下がるとして、第十重川や第二光泉のような体積系の種雄牛から”〇〇”光丸のように肉質に優れた種雄牛へと、交配頻度が変わる傾向がしっかりと読み取れる。しかも、このような肉質を重視した改良のなかで、表1に示したように発育や増体も併行して改良されており、特筆に値する。褐毛和種の品種特徴を損わない意識した改良が図られており、育種関係者の労を多としたい。

## II. 母方種雄牛と種雄牛との組合せ

### 1. 種雄牛の産肉能力

母牛の父（母方種雄牛）と種雄牛の組み合わせが肉質に及ぼす影響を検討する前に、種雄牛による産肉性の違いを求めたのが表3、4及び5である。表3、4及び5の各項目の数値には前述したように一部の産肉項目に大きな年度格差が認められたので、年度効果を補正してある。

まず、肥育期間の日増体量（肥育日増体、kg/日）である（表3）。息牛が20頭以上含まれていた種雄牛は全頭で22頭いた。このうち最も肥育日増体が良かったのは第五光丸である。肥育日増体が1.05kgである。生後からの通算の日増体量では1.02kgとなる。これに次ぐのが第十光丸、重南、重豊、第二光泉、菊重川、第二光丸、光丸、第八光丸、福重川、光重川、花竜及び第三光丸で、先に記した種雄牛ほど増体が良い。肥育日増体はすべて1.00kg以上であって、第五光丸とも遜色のない種雄牛といえる。種雄牛名を列挙したなかで菊重川までが生後日増体1.00kg以上の良好な発育であった。

（肥育）開始月齢や肥育期間は種雄牛間に大きな差がなかった（表3）、したがって、（肥育）終了体重は肥育日増体の多い順に重いことになる。（肥育）開始月齢、肥育日数、屠殺（肥育終了）月齢など肥育管理の基本となる数値も種雄牛間のほか、肥育者あるいは圏内地域間（後二者の図表は割愛）にも差がなく、よく揃っていた。このことは、w畜協地域内の肥育技術の平準化が極めて高いことを物語っている。

肉質、こゝで取あげるのは脂肪交雑のみであるが、最も優れていたのが第十

表3 種雄牛による去勢肥育牛の増体量の違い  
(息牛20頭以上の種雄牛のみ)

種雄牛	頭数	月齡, 月		体重, kg		肥育 日数	日増体, kg/日	
		開始	終了	開始	終了		肥育	生後
第五光丸	38	9.6	22.5	325	740	394	1.05	1.02
第十光丸	42	9.6	22.7	315	730	400	1.04	1.00
重南	32	9.7	22.9	330	750	402	1.04	1.02
重豊	26	9.2	22.6	323	747	406	1.04	1.03
第二光泉	159	9.5	22.7	318	734	402	1.03	1.01
菊重川	58	9.3	22.6	313	735	407	1.03	1.01
第二光丸	80	9.7	22.8	317	728	400	1.02	0.99
光丸	24	9.9	22.7	316	719	392	1.02	0.98
第八光丸	94	9.5	22.6	309	720	399	1.02	0.99
福重川	29	9.9	22.9	306	706	395	1.01	0.96
光重川	223	9.7	22.9	313	723	402	1.01	0.98
竜花	118	9.6	22.8	316	720	403	1.00	0.98
第三光丸	163	9.3	22.8	306	717	408	1.00	0.98
第八光武	51	9.8	22.8	311	705	395	0.99	0.96
光營	88	9.6	22.8	315	713	401	0.99	0.97
第十重川	367	9.6	22.9	316	721	404	0.99	0.98
波丸	38	9.7	23.0	318	714	402	0.98	0.96
第三重川	28	9.6	23.0	300	703	411	0.96	0.94
第二重光	69	9.8	22.9	324	710	398	0.96	0.96
重隆	111	9.6	23.1	312	703	409	0.95	0.94
球月	54	9.7	23.1	310	699	410	0.94	0.94
光武	39	9.5	22.8	314	697	407	0.93	0.95

光丸である。脂肪交雑1.47と他の種雄牛よりも抜きんでて優れた成績である。この第十光丸は、本調査時点では新しく用い始められた種雄牛であって、本調査牛のなかに息牛は僅かに42頭が含まれているのみである。したがって、後で触れる母方種雄牛と種雄牛の組み合わせが肉質に及ぼす影響を求めた表6には出てこない。そこで、ここで第十光丸と相性の良い母方種雄牛を記すと、第十重川（5頭、2.19）、球月（2頭、2.16）及び光丸（3頭、2.19）などであった（括弧内の数値は脂肪交雑の平均値）。

息牛の数が多かった上位6頭の種雄牛に限って脂肪交雑と屠殺月齡、（肥育）終了体重及び枝肉重量などとの関連を明らかにするために、それらを相互に作図したり回帰や相関を求めた。その結果、作図上では脂肪交雑は屠殺月齡が進むほど良くなると読み取れるような種雄牛もあったが、種雄牛内あるいは

表4 種雄牛による去勢肥育牛の脂肪交雑の  
違い（息牛20頭以上の種雄牛のみ）

種雄牛	頭数	枝肉* 重量	枝肉** 歩留	脂肪 交雑
第十光丸	42	439.1	64.4	1.47
第三光丸	163	436.7	65.3	1.06
波丸	38	430.7	64.7	1.04
第三重川	28	423.1	64.7	1.01
光丸	24	431.6	64.4	0.94
光武	39	421.4	65.0	0.91
第二光丸	80	441.5	65.0	0.87
第八光武	51	427.6	65.2	0.87
福重川	29	422.5	64.3	0.86
第十重川	367	434.1	64.5	0.82
第二光泉	159	439.4	64.1	0.81
光誉	88	429.9	64.7	0.81
重豊	26	444.7	63.7	0.79
光重川	223	437.6	64.9	0.77
重隆	111	422.3	64.5	0.76
菊重川	58	443.2	64.6	0.75
竜花	118	431.6	64.3	0.68
第八光丸	94	426.1	63.5	0.69
球月	54	416.0	64.0	0.61
第二重光	69	425.9	64.4	0.59
重南	32	451.7	64.4	0.56
第五光丸	38	439.4	63.6	0.50

\*単位, kg \*\*単位, %

種雄牛を込みにしてもこれらの形質間の回帰や相関係数はいずれも小さく、有意ではなかった。

次は日増加額。前述したように日増加額は大きな傾向として導入価格と逆相関の関係にあった。ところが、脂肪交雑の評価と枝肉単価とは前者が良好であると後者の単価も高くなるというパラレルな関係にあるのに対して、脂肪交雑と日増加額とは必ずしもパラレルな関係にはない（表5）。これは、日増加額の算出式が明らかに示すように、枝肉単価が高くなっても素牛の導入価格が高くなると、結果的には日増加額が低くなることが明らかであるからである。

日増加額のベストテンは第十光丸、第二光丸、第三光丸、重豊、第二光泉、

表5 種雄牛による去勢肥育牛の日増加額の違い  
(息牛20頭以上の種雄牛のみ)

種 雄 牛	頭数	価格, 万円		脂肪 交雑	枝肉* 単価	日増* 加額
		導入	販売			
第十光丸	42	368	836	1.47	1945	1144
第二光丸	80	376	729	0.87	1706	890
第三光丸	163	377	741	1.06	1747	886
重 豊	26	375	721	0.79	1671	859
第二光泉	159	382	723	0.81	1695	851
光 丸	24	381	712	0.94	1702	849
第三重川	28	352	704	1.01	1714	845
菊 重川	58	386	719	0.75	1672	826
第八光武	51	388	714	0.87	1721	820
波 丸	38	394	723	1.04	1722	819
福 重川	29	374	698	0.86	1700	817
第十重川	367	382	710	0.82	1685	815
光 重川	223	386	710	0.77	1673	809
光 蒼	88	380	703	0.81	1682	803
竜 花	118	378	690	0.68	1645	778
第八光丸	94	373	680	0.69	1648	768
光 武	39	379	688	0.91	1682	762
重 南	32	385	690	0.56	1581	753
重 隆	111	381	683	0.76	1667	735
第二重光	69	387	668	0.59	1618	703
第五光丸	38	385	663	0.50	1555	702
球 月	54	377	662	0.61	1641	700

\*単位, 円

光丸、第三重川、菊重川、第八光武及び波丸である。これに対して脂肪交雑のそれらは第十光丸、第三光丸、波丸、第三重川、光武、第二光丸、第八光武、福重川、第十重川及び第二光泉の順であるから、双方ともトップである第十光丸を除くと順位が大きく入れ違っている、ことが分る。導入価格の上位は波丸、第八光武、第二重光、菊重川、光重川、重南、第五光丸、第十重川、第二光泉及び光丸・重隆がバストテンであるから、全体的には日増加額の順位とは逆の順位にあるとみなして差し支えない。この事実、子牛市場での評価が脂肪交雑や枝肉単価については日増加額の評価を意味していない側面があることを示している。第十光丸はその最も良い例といえる。導入価格（子牛市場での評

表6a 母方種雄牛と交配種雄牛の組合せと肉質（息牛7頭以上の組合せのみ）

母方種雄牛	種雄牛	頭数	体重,kg		DG(kg/日)		日増加額,円	脂肪 <sup>1</sup> 交雑	枝肉 <sup>2</sup> 単価	導入 <sup>3</sup> 価格	月齢	
			開始	終了	肥育生涯 <sup>4</sup>	開 <sup>4</sup>					終 <sup>5</sup>	
菊竜	第十重川	7	303	709	1.00	0.96	811	0.82	1678	371	9.6	23.2
久旗	第十重川	8	323	720	0.99	0.98	805	0.54	1663	375	10.1	23.0
光武	菊重川	9	315	735	1.04	1.00	864	0.84	1701	393	9.6	22.9
光武	球月	10	309	705	0.96	0.93	724	0.62	1638	377	9.9	23.3
光武	光重川	36	311	732	1.04	1.01	859	0.80	1707	396	9.3	22.6
光武	重隆	16	311	688	0.92	0.91	654	0.64	1631	386	10.0	23.4
光武	第三光丸	7	301	709	1.02	0.95	831	0.88	1718	394	9.7	23.2
光武	第三重川	9	321	727	1.00	0.98	817	0.81	1662	382	9.8	23.1
光武	第十重川	81	315	731	1.01	0.99	852	0.89	1713	389	9.7	23.1
光武	第二光丸	8	309	708	0.97	0.97	896	0.81	1750	372	9.4	22.5
光武	第二光泉	30	312	727	1.02	1.01	861	0.88	1710	382	9.2	22.4
光武	第二重光	18	321	702	0.95	0.95	645	0.49	1586	389	9.8	22.9
光武	第八光丸	9	311	688	0.96	0.94	696	0.74	1686	382	9.7	22.6
光武	福重川	10	298	705	1.00	0.95	827	1.03	1733	376	9.7	23.1
光武	竜花	22	312	715	0.97	0.97	795	0.68	1667	376	9.4	22.9
重福	光重川	11	328	714	0.97	0.96	786	0.67	1650	380	10.2	23.1
重福	第十重川	22	308	708	0.97	0.97	807	0.78	1676	362	9.3	22.7
重福	第二光丸	7	316	730	1.04	1.00	875	0.88	1675	371	9.6	22.7
重福	第二光泉	13	316	724	0.98	1.00	761	0.54	1644	379	9.0	22.5
重福	第八光丸	7	297	716	1.00	0.99	776	0.78	1675	357	8.9	22.6
重福	竜花	7	320	765	1.09	1.06	826	0.57	1604	378	9.2	22.7
初宝	光重川	20	300	714	1.00	0.97	827	0.89	1701	372	9.4	22.9
初宝	重隆	7	304	673	0.88	0.92	647	0.76	1649	381	9.0	22.5
初宝	第十重川	12	321	720	0.98	0.98	792	0.77	1656	382	9.7	22.8
初宝	第二光泉	11	320	719	0.98	0.98	817	0.98	1713	383	9.5	22.8
初宝	竜花	9	320	709	0.92	0.96	740	0.77	1646	373	9.3	23.3
蘇月	第十重川	10	312	696	0.97	0.95	708	0.84	1651	382	9.9	23.0
蘇幸	光重川	8	323	726	0.99	0.97	866	0.92	1707	385	9.9	23.1
蘇幸	第十重川	15	323	735	1.01	1.02	811	0.81	1660	388	9.4	22.7
蘇幸	第二光丸	8	318	729	1.01	1.00	868	0.69	1711	384	9.5	22.7
蘇幸	第二光泉	9	309	734	1.05	1.00	851	0.98	1724	376	9.5	22.8
蘇竜	第三光丸	7	292	696	0.98	0.94	755	0.68	1642	377	9.3	22.9
蘇竜	第十重川	11	328	730	1.00	0.98	781	0.62	1646	387	10.1	23.3

<sup>1</sup>日格協<sup>+</sup>, -はそれぞれ0.3を増減 <sup>2</sup>円/kg <sup>3</sup>千円/頭 <sup>4</sup>生時から屠殺までのDG (kg/日) <sup>5</sup>開始<sup>4</sup>終了

表6b 母方種雄牛と交配種雄牛の組合せと肉質（息牛7頭以上の組合せのみ）

母方種雄牛	種雄牛	頭数	体重, kg		DG(kg/日)		日増加額, 円	脂肪 <sup>1</sup> 交雑	枝肉 <sup>2</sup> 単価	導入 <sup>3</sup> 価格	月齢	
			開始	終了	肥育	生涯 <sup>4</sup>					開 <sup>5</sup>	終 <sup>5</sup>
第三重川	光重川	22	318	729	1.03	0.99	811	0.68	1648	392	9.9	22.9
第三重川	重隆	9	327	709	0.91	0.96	680	0.70	1655	396	9.2	22.9
第三重川	第三光丸	15	308	706	0.98	0.98	864	1.15	1779	393	9.2	22.4
第三重川	第十重川	20	322	715	0.97	0.99	802	0.91	1701	394	9.2	22.5
第三重川	第二光丸	11	300	715	1.06	0.99	889	0.84	1675	356	9.7	22.6
第三重川	第二光泉	14	310	752	1.07	1.03	874	0.67	1690	381	9.2	22.7
第三重川	第八光丸	7	315	730	1.03	1.00	797	0.76	1664	385	9.7	22.8
第三重川	竜花	18	320	727	1.01	0.99	766	0.78	1617	382	9.5	23.0
第三蘇殖	光重川	11	310	725	1.03	0.99	811	0.66	1655	388	9.8	22.9
第三蘇殖	第十重川	21	317	716	0.97	0.98	789	0.82	1679	385	9.3	22.6
第三蘇殖	第二光丸	8	322	720	0.96	0.95	812	0.73	1650	369	10.0	23.5
第十重川	球月	7	314	724	0.99	0.95	771	0.52	1629	365	10.4	23.7
第十重川	光重川	28	307	705	0.98	0.94	767	0.75	1670	374	9.9	23.2
第十重川	光武	7	318	700	0.92	0.93	783	0.95	1738	394	9.9	23.2
第十重川	光營	26	316	720	1.02	0.99	788	0.73	1644	386	9.6	22.6
第十重川	重隆	19	297	698	0.97	0.94	787	0.92	1717	378	9.6	23.1
第十重川	第五光丸	7	310	723	1.02	1.00	628	0.39	1494	382	9.2	22.5
第十重川	第三光丸	38	307	724	1.02	1.00	887	0.99	1729	379	9.3	22.6
第十重川	第二光丸	7	322	737	1.09	1.05	895	0.90	1675	393	9.6	22.0
第十重川	第二光泉	13	317	757	1.08	1.01	971	1.02	1776	399	10.0	23.4
第十重川	第八光丸	33	312	720	1.04	0.99	818	0.75	1666	368	9.6	22.6
第十重川	第八光武	14	312	691	0.98	0.95	821	0.93	1746	394	9.8	22.4
第十重川	竜花	21	314	721	1.01	1.00	791	0.64	1638	374	9.4	22.6
第二光丸	重隆	11	334	723	0.97	0.97	747	0.76	1650	399	10.0	23.2
第二光泉	光重川	15	315	753	1.05	1.02	818	0.75	1654	392	9.3	23.0
第二光泉	光營	8	321	722	0.99	0.98	839	0.94	1716	385	9.7	23.0
第二光泉	重隆	7	294	728	1.01	0.96	835	0.81	1681	349	9.7	23.5
第二光泉	第三光丸	13	299	713	0.96	0.96	928	1.30	1815	369	9.0	23.0
第二光泉	第十重川	21	317	715	1.01	0.97	799	0.82	1670	389	10.0	22.9
第二楠風	第十重川	7	307	725	1.02	0.96	819	0.60	1627	355	10.1	23.6
福花	第三光丸	8	316	705	0.95	0.95	654	0.75	1574	375	9.7	23.0
福花	第十重川	10	309	706	1.02	0.96	805	0.79	1651	367	9.9	22.8
福花	第二光泉	11	328	726	1.03	1.01	825	0.71	1645	379	9.5	22.2
福竜	光重川	7	316	748	1.10	1.02	903	0.79	1668	381	10.0	22.9
福竜	第十重川	16	311	725	1.00	0.98	849	0.89	1710	375	9.5	23.1
福竜	第二光泉	7	307	717	1.04	0.99	739	0.76	1640	383	9.3	22.5

<sup>1</sup>日協協 <sup>2</sup>はそれぞれ0.3を増減 <sup>3</sup>円/kg <sup>4</sup>千円/頭 <sup>5</sup>生時から屠殺までのDG (kg/日) <sup>6</sup>開始 <sup>7</sup>終了

価)はベスト10に入らないばかりか、低い方から2番目に過ぎないのである。第十光丸は調査時点では新しい種雄牛であり、評価にも模様眺めの意志が働いたのであろう。

このように、肥育素牛の購入に当たっては子牛市場価格(評価)だけでなく、肉質的な仕上がりを見込むことが大切である。特に、本調査の第十光丸のように肉質的な能力は高いにもかかわらず市場評価が低い種雄牛も、その種雄牛が使われ始めた当初にはみられるので、常に遺伝情報を収集しておくことが大切である。褐毛和種のように肥育期間や生涯の日増体量、肥育終了体重のような量的肥育形質が極めて平準化されている品種では、肥育収益が脂肪交雑(枝肉単価)に大きく左右されるからにほかならない。

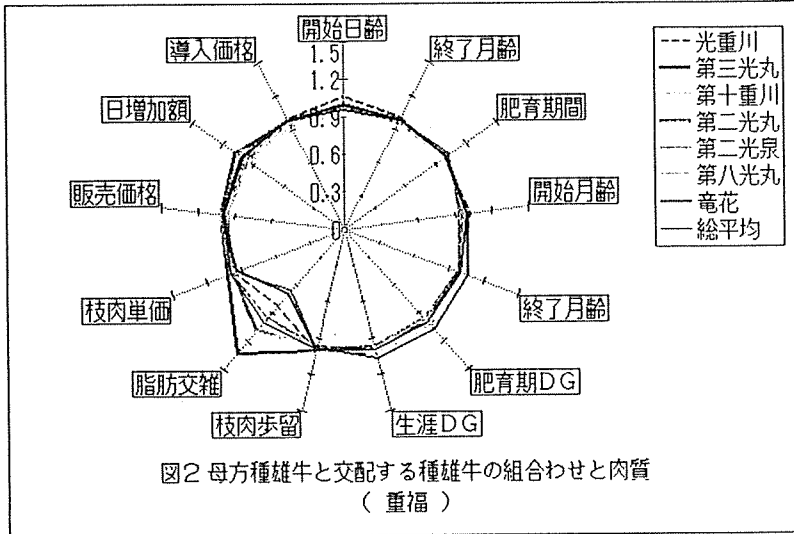
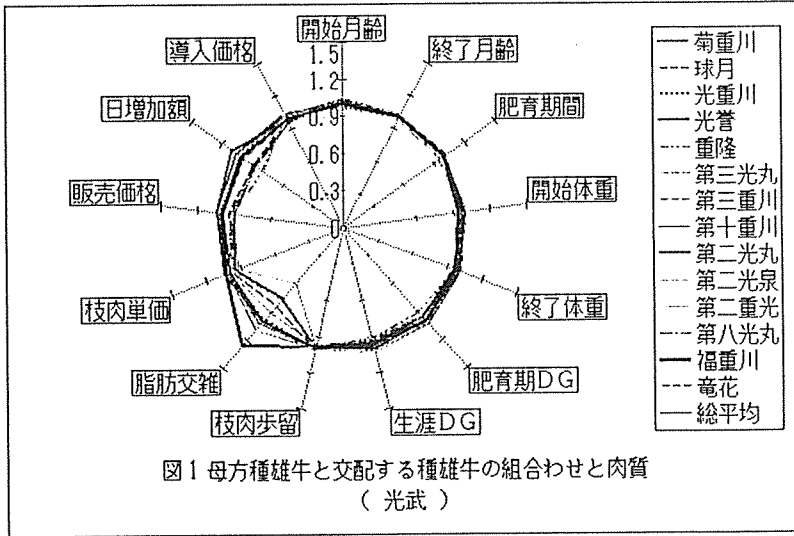
## 2. 母方祖父(種雄牛)と種雄牛の 組み合わせ

肥育素牛に対する遺伝的な貢献は種雄牛が0.5であり、母方種雄牛はその半分の0.25であることは周知の事実である。しかし、このような遺伝子由来の頻度のみで説明できないような事実があることも知られている。種雄牛と母方種雄牛の遺伝子が相互に補完して優れた経済形質を示すことがあるからである。表6に母方種雄牛と種雄牛の組み合わせによる肉質及び産肉性との関係を取りまとめ示した。さらに表6に掲げた母方種雄牛の代表的な組み合わせについてレーダー図を作成した(図1:光武、図2:重福、図3:初宝、図4:第三重川、図5:第十重川及び図6:第二光泉)。この作図は該当する組み合わせが7例以上認められたものに限定した。以下は、レーダー図を作成した6頭の母方種雄牛の組み合わせを中心に述べることにする。

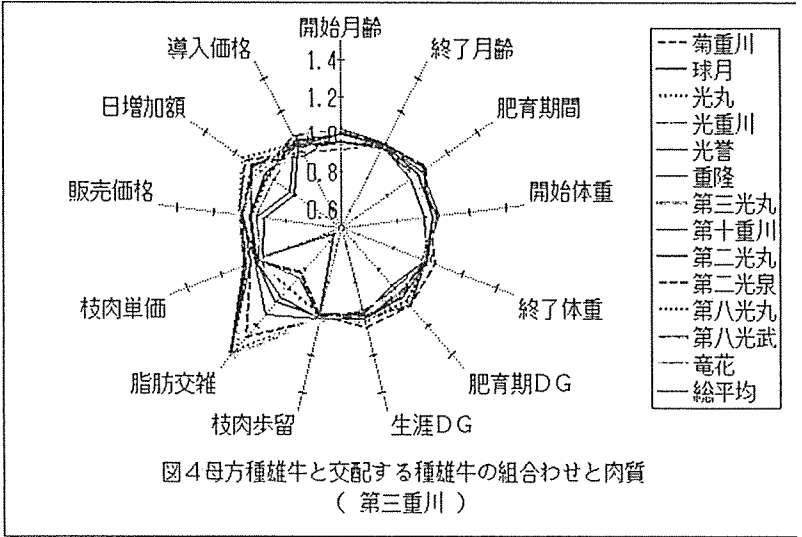
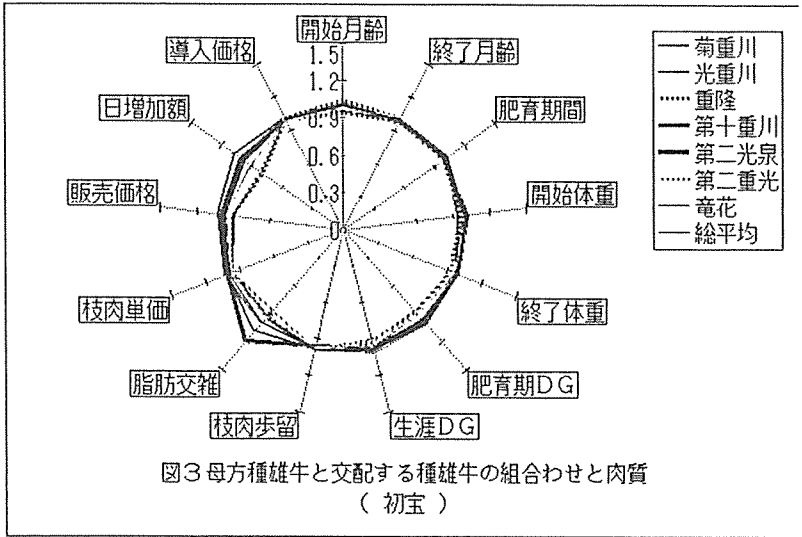
なお、レーダー図では表1に示した各項目の全体(平均)を1とした指数で表示した。したがって、図示した組み合わせのある項目が1以上であれば調査牛平均よりも優れた形質であることが分り、母方種雄牛内での種雄牛との組み合わせ能力が評価できるばかりでなく、その組み合わせ能力が調査牛平均とどのような位置関係にあるか一瞥で分る利点がある。また、これらの作図には表6に含まれない組み合わせも加えた場合がある。

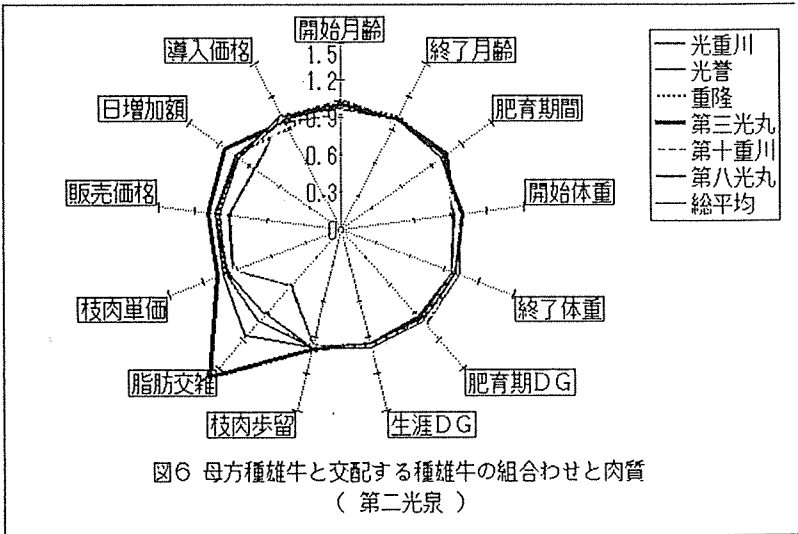
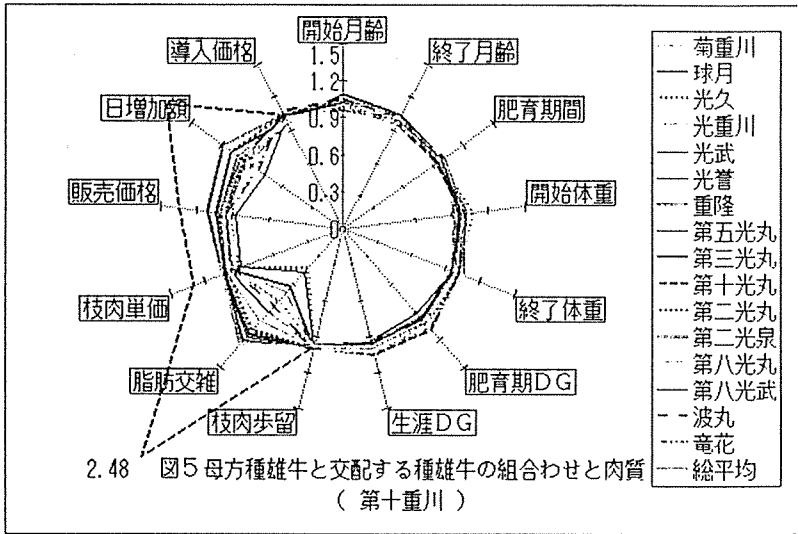
### 1) 日増体量及び(肥育)終了体重

母方種雄牛と種雄牛の組み合わせで(肥育)開始月齢、屠殺月齢、肥育日数及び開始と(肥育)終了体重などは余り影響を受けないようである(表6)。肥育期の日増体量(肥育日増体)や屠殺までの生涯日増体量(生涯日増体)も同様である。以下、本項の記述では特に断らない限り、“種雄牛名”は母方種雄









牛を指すことにする。

”光武”の肥育日増体は光重川と交配したときが最大で1.04kg。同重隆では最小の0.92kgである。”第十重川”ではそれぞれ1.08kg（第二光泉）と0.97kg（光武）。生時から屠殺までの生涯日増体でもそれぞれ”光武”で1.01kgと0.91kg、”第十重川”では1.05kgと0.93kgとなるから、組み合わせの影響は比較的少ないと考えてよい。このことは、図1～6でも明瞭で、開始体重、終了体重、生後DG、肥育DG及び枝肉重量などの量的な形質は、どの種雄牛を交配してもさして変りのない成績が得られている。

しかし、注意して眺めると面白いことがある。それは、”光武”と”第二光泉”を父にもつ母牛はどの種雄牛と交配しても余り変らない増体や体重を示すのに対して、”重福”、”初宝”、”第三重川”及び”第十重川”を父にもつ母牛では交配する種雄牛によって増体や体重が変わるということである。換言すると、これらの母方種雄牛では量的な形質に対して相加効果が認められる可能性があるのである。増体や体重で比較的大きな差が認められた”初宝”を例にとると（図3）、増体や体重は重隆と交配すると小さくなり、光重川、第二光泉及び福重川と交配すると逆に大きくなる傾向が読み取れる。

## 2) 導入価格

図1～6からは導入価格の差が読み取りにくい。表6によれば、”光武”を父にもつ母牛はどの種雄牛と交配しても総平均と遜色のない（市場）評価が得られている。”重福”、”初宝”も同様な傾向がある。

”第三重川”を父にもつ母牛は第三光丸、第十重川、重隆及び光重川と交配したときに評価が高い。”第十重川”は第八光武、第三光丸及び光誉と交配したときに高く、球月、第二光泉とでは低い。”第二光泉”は光重川と交配すると評価が低い傾向がある。

## 3) 枝肉重量

日増体量などとともに母方種雄牛と種雄牛の組み合わせで明瞭な差が認められない項目の一つである。

## 4) 脂肪交雑と枝肉単価

脂肪交雑は本調査項目のなかで最も変化の大きかった項目である。枝肉単価はこの脂肪交雑とほぼ同じ傾向があった。

種雄牛の組み合わせでは”光武”を父にもつ母牛では最高1.03（福重川）、最低0.49（第二重光）の脂肪交雑であるから交配する種雄牛の選定によって倍半分に評価が分れることになる。同様なことは”第三重川”及び”第二光泉”にも認められる（表6、図4、5及び6）。

”光武”（本調査に息牛が39頭含まれ脂肪交雑は0.91、以下同じ）では福重川と交配したときに評価が高いことは先に述べたが、この交配では種雄牛の能力を越えた脂肪交雑が得られている。球月、重隆及び第二重光との交配では低い評価であった。第十重川、第二光泉と交配すると約1の脂肪交雑となるから、このような交配は”光武”の資質と交配種雄牛の体積系との交配であるから、一つの交配様式である（図1）。

”重福”では第二光丸、第三光丸との相加効果が優れている（図2）。

”初宝”の脂肪交雑（ $n=13$ 、0.75）は中の下であるが、表6に示した第二光泉や光重川との交配では種雄牛能力を上廻る1に近い脂肪交雑が得られている。第十重川、重隆との相性は低く、第二光泉との相加効果が優れる（図3）。

”第三重川”（ $n=28$ 、1.01）は肉質に優れた種雄牛であるが（表4）、交配する種雄牛によって脂肪交雑が著しく変るという特徴がある。第三光丸、光丸及び菊重川と組み合せたときに”種雄牛”能力を上廻る脂肪交雑が得られ、この組み合わせでは調査牛平均を上廻る成果である。反対に第二光泉、光重川、第二光丸及び重隆（図4）との交配の評価は低い。

”第十重川”（ $n=367$ 、0.82）では第二光泉、第八光丸、第八光武、光武、第三光丸及び重隆と交配したときにおよそ1の脂肪交雑が得られ、評価が高い。第三光丸との交配を除くと種雄牛の脂肪交雑能力よりも高い成績である。図5から、第十光丸との相性が極め高いことが分かる。球月、菴花、光久、光誉及び第五光丸との交配は余り期待できない。

最後に”第二光泉”である。第二光泉（ $n=159$ 、0.81）は第三光丸との相性がよい。この交配では種雄牛の能力を越える。図6から第三光丸と光誉との相性効果が優れること、第八光丸とは逆に相性効果が期待できないことなどが分かる。

以上、表4に示した主な母方種雄牛についてそれらの相性を中心にみてきた

表7 母方祖父種牛と種牛の組み合わせと脂肪交雑の相性効果<sup>1)</sup>

種雄牛	種雄牛の交雑	母方祖父					
		第十重川(n=367, 0.82)			光武(n=39, 0.91)		
		頭数	交雑*	効果**	頭数	交雑*	効果*
種雄牛							
第三光丸	1.06	38	0.99	+	7	0.88	-
第八光丸	0.69	33	0.75	=, >♂	9	0.74	=
光重川	0.77	28	0.75	=	36	0.80	=
光營	0.81	26	0.73	-	6	0.62	----
竜花	0.68	21	0.64	--	22	0.68	-
重隆	0.76	19	0.92	++, >♂	16	0.64	----
第八光武	0.87	14	0.93	+, >♂	-	-	
第二光泉	0.81	13	1.02	+++, >♂	30	0.88	=
球月	0.61	7	0.52	----	-	-	
光武	0.91	7	0.95	+	-	-	
第五光丸	0.50	7	0.39	----	-	-	
第二光丸	0.87	7	0.90	+	8	0.81	=
菊重川	0.75	5	0.56	----	9	0.84	=
光久	0.44	5	0.35	----	-	-	
第十光丸	1.47	5	2.01	+++, >♂	-	-	
波丸	1.04	5	0.68	----	-	-	
重南	0.56	4	0.48	----	4	0.43	----
第十重川	0.82	4	0.77	=	81	0.89	=

<sup>1)</sup>本文参照, \*母方祖父種牛と種雄牛の脂肪交雑, \*\*本文参照

が、記述で”○○の種雄牛能力を越えた”という表現を用いたのは、当該組み合わせの息牛（調査牛）の脂肪交雑が本調査で得た種雄牛別の脂肪交雑（年次効果補正して求めた平均）よりも優れた成績を示した場合である。

母方種雄牛と種雄牛の組み合わせを母方種雄牛として最も多数を占めた第十重川について詳細にまとめたのが表7である。表7で効果としたのは、計算を簡単にするために、該当する組み合わせの脂肪交雑が（総平均+（当該種雄牛の脂肪交雑－総平均）×(1/2)+（当該母方祖父種雄牛の脂肪交雑－総平均）×(1/4)から、どの位大きいかの相対的な評価である。また”>♂”は組み合わせの能力

が該当する種雄牛の脂肪交雑よりも高い成績を得ていることを示すものである。表7には、母方種雄牛と種雄牛の組み合わせによって相加効果の違いがでることが明瞭に示されている。

### III. まとめ

母方種雄牛と種雄牛の組み合わせで、脂肪交雑を中心に相加効果の違いがあることが明瞭になった。

この結論は、本調査のように長期間にわたる記録が蓄積されたからこそ可能となったものであるが、読者賢者は既にお気付きのように、今日的な興味からすると本稿に挙げた種雄牛は古いものが多く、既に供用廃止になったものも多く含まれている。特に、本稿で母方祖父と称した種雄牛に多い。

肉用牛の改良は、どうしても種雄牛が中心となり、公的な機関が担当することにならざるを得ない面があることは否めない事実である。が、本調査の資料をご提供頂いたw畜協のように統轄圏内で生産された子牛の肥育成績を蓄積、解析することは極めて貴重な行為で、解析結果は、肥育素牛の血統の選定から圏内雌牛に対する交配計画にまで利用できるし、また状況証拠としては種雄牛別に、あるいはその母方種雄牛との組み合わせで飼料給与（肥育）体系を考えることが妥当であるとする事実もある。また、本稿ではそこまで求めるに至らなかったが、近年普及したパソコンと既存のソフトを利用すれば種雄牛の育種価を求めることも可能である。種雄牛の育種価が明らかになれば、体系的な育種・交配計画の立案ができるようになり、改良速度が一段と速まることが予想される。さらに公的な機関が担当する種雄牛候補の直接検定、間接検定に現場検定を重ねることで、選抜の精度を一層高めることになる。なりよりも魅力的なことは、肥育データを集積するという行為とそれらの解析が、種雄牛の評価、母方種雄牛と種雄牛の組み合わせの評価をとおして、肥育収益の増大をもたらす今日的な利益の享受に与えられることである。経営体の肥育体系に適合する血統の肥育素牛を、経営体の営農経営のデータから解析することで選択することが可能となるわけで、より評価の高い枝肉を均質で、より安定的に生産できる知的環境が整ってゆくことになるからである。

# 支部だより

## 熊 本 県 支 部

### ○ 熊本県肉畜共進会開催

第13回熊本県肉畜共進会（熊本県畜産連合会主催）が、平成4年11月10日から11月13日までの4日間、熊本県菊池郡七城町の備熊本畜産流通センターで開催された。あか牛関係の成績は次の通りである。

（審査報告より抜粋）

褐毛和種の出品は72頭でありました。

審査は産肉性評価基準に基づき行いました。平均月齢と体重は、23.9カ月、716.6kgであり、肥育管理の一般的な状態は良好であったといえます。ただ、中に過大なもの、体のゆるいもの、肢蹄の悪いものが見られましたが、満足できる水準にありました。

枝肉の評価についてみますと、平均枝肉重量は、443.6kgとなっており、県内からの出荷牛の数値と比較すると、約20kg程度は大きいものでありました。歩留基準値は73.2%となっていて、「B」ランクが少なくなっており、前回の成績より向上したことになります。肉質等級の分布状況をみますと、「5」ランク2.8%、「4」ランク38.9%、「3」ランク56.9%、「2」ランク1.4%となっており、この成績は前回に比べて「5」ランクと「2」ランクが減少し、「4」ランクと「3」ランクの割合が増加したことになります。このような成績になった要因は、BMS値の平均が4.5で0.2ポイントほど低下したことと肉色ならびにシマりに難点があるものがでたことによるものと考えられます。

今回の共進会を概観して言えることは、突出した成績のものが出なかったものの、肥育素牛の選定・系統の交配型にも配慮がなされているし、成績の数値のバラツキの幅は小さくなっていることから、今後は全体的に上位へ浮上が期待されます。肥育技術に関する基本的情報も集積され、肥育マニュアルも確立しつつありますので、自信を持って今後のご努力をお願いします。

第 1 3 回熊本県肉畜共進会成績表 その 1

出品 番号	血		統		出 品 者 氏 名	生年月日	導 入 年 月 日	導 入 体 重
	父	母	母	母				
1		初 宝	光 丸	松尾二三生	03/01/06	03/09/29	317	
2		光重川	初 宝	栗原 富之	02/12/18	03/09/29	365	
3		蘇 幸	球 福	津留 孝二	02/12/08	03/10/06	336	
4		第十重川	光 武	広瀬 良継	02/12/02	03/10/06	346	
5		第十重川	草 桜	原田美佐子	02/11/28	03/09/29	356	
6		重 隆	第28重川	安武 幹記	02/11/24	03/08/09	305	
7	第三光丸	第二光丸	初 宝	児島 康博	02/11/01	03/07/29	306	
8		光重川	光 武	磯本 利道	02/10/30	03/09/03	365	
9		蘇 明	重 玉	市原 幸生	02/10/25	03/08/09	336	
10		光 武	白 岩	中野 勇輔	02/10/21	03/09/03	309	
11		第13重川	光 武	荒木 信也	02/10/20	03/09/20	264	
12		第二重光	初 宝	東 洋光	02/10/19	03/08/05	338	
13		菊 童	重 十	月 足	02/10/15	03/07/29	309	
14		波 丸	福 童	荒牧 弘幸	02/10/13	03/08/05	317	
15		第十重川	蘇 月	国武 国利	02/10/12	03/07/20	313	
平		均						325
16			光 武	春 栄	土田 重行	02/12/12	03/09/03	274
17			初 宝	重 波	中満 達也	02/12/11	03/09/29	356
18			第二重川	重 宝	西島 健二	02/12/11	03/09/29	335
19			第三光丸	蘇 栄	輿村 智昭	02/12/10	03/10/06	342
20			第十重川	金 時	大淵 慶立	02/12/01	03/09/29	390
21		福 童	第三蘇殖	大賀 政男	02/11/29	03/08/06	337	
22		第二光丸	第五重川	後藤 春雄	02/11/26	03/10/06	368	
23	波 丸	第二重富	蘇 殖	片山 幸一	02/11/22	03/07/29	314	
24		第六栄	楠 風	中原 喜則	02/11/21	03/09/29	290	
25		第二光泉	第十重川	野田 郁夫	02/11/14	03/09/29	304	
26		光 泉	光 武	矢部畜協	02/11/10	03/09/20	313	
27		第13重川	重 宝	中島 一喜	02/11/02	自家産	-	
28		重 豊	重 光	片山 憲一	02/10/30	03/07/29	334	
29		第十重川	第二光丸	広田 基公	02/10/24	03/09/03	301	
30		第三重川	蘇 童	穴 兎	02/10/14	03/08/09	376	
平		均						331
31			重 豊	重 栄	帆保 新次	03/01/01	03/09/29	369
32	第八光武	第二光泉	第二楠風	林田 直行	02/12/23	03/10/06	305	
33		第五光丸	初 宝	桑原 公博	02/10/30	03/07/29	347	
34		第十重川	球 栄	藤原 勉	02/10/27	03/12/05	280	
35		初 宝	重 栄	長野 誠	02/10/21	03/06/03	313	
36		光 武	第三重川	東 義秋	02/10/21	03/08/06	338	
平		均						325



導入 月齡	生後 月齡	生後 日齡	肥育 日数	体 型 測 定 値				と殺前 体 重	生後 DG	期間 DG	肥育度 指 数
				体 高	胸 囲	寬 幅	着 体 重				
8.8	22.2	674	408	139.0	211	51	672	652	0.95	0.87	483
9.4	22.8	693	408	146.0	226	49	732	722	1.01	0.90	501
9.9	23.1	703	401	135.5	223	52	742	716	1.01	1.01	548
10.1	23.3	709	401	140.5	226	51	710	688	0.96	0.91	505
10.0	23.5	713	408	140.0	225	52	762	746	1.02	1.00	544
8.5	23.6	717	459	137.0	214	51	662	638	0.88	0.78	483
8.9	24.3	740	470	140.5	213	47	650	642	0.84	0.73	463
10.1	24.4	742	434	134.5	224	52	754	736	0.97	0.90	561
9.5	24.6	747	459	131.0	219	49	606	600	0.77	0.59	463
10.4	24.7	751	434	134.5	216	51	674	664	0.85	0.84	501
11.0	24.7	752	417	130.0	215	47	636	598	0.80	0.89	489
9.5	24.8	753	463	139.0	229	48	726	714	0.92	0.84	522
9.4	24.9	757	470	140.0	216	49	662	650	0.83	0.75	473
9.7	25.0	759	463	137.5	226	52	752	740	0.95	0.94	547
9.2	25.0	760	479	142.0	234	51	736	726	0.93	0.88	518
9.6	24.1	731	438	137.8	221.1	50.1	698.4	682.1	0.91	0.85	506.8
8.7	23.0	699	434	138.5	217	51	660	646	0.90	0.89	477
9.6	23.0	700	408	147.0	223	53	772	752	1.06	1.02	525
9.6	23.0	700	408	137.0	222	51	758	722	1.04	1.04	553
9.9	23.1	701	401	137.0	216	54	724	706	0.99	0.95	528
9.9	23.4	710	408	141.5	214	52	706	686	0.95	0.77	499
8.2	23.4	712	462	139.0	230	53	796	764	1.07	0.99	573
10.3	23.5	715	401	147.0	229	52	760	760	1.02	0.98	517
8.2	23.7	719	470	141.5	225	53	764	752	1.02	0.96	540
10.3	23.7	720	408	137.0	217	51	688	668	0.91	0.98	502
10.5	23.9	727	408	132.5	215	52	720	690	0.95	1.02	543
10.3	24.0	731	417	139.0	220	51	716	710	0.94	0.97	515
—	24.3	739	—	132.5	201	50	596	592	0.76	—	450
8.9	24.4	742	470	149.0	230	54	826	786	1.07	1.05	554
10.3	24.6	748	434	146.0	216	51	692	680	0.88	0.90	474
9.8	24.9	758	459	141.0	229	50	716	702	0.90	0.74	508
9.6	23.7	721	428	140.4	220.3	51.9	726.3	707.7	0.96	0.95	522.1
8.9	22.3	679	408	143.0	221	55	786	778	1.11	1.02	550
9.4	22.6	688	401	139.0	222	52	752	744	1.05	1.11	541
8.9	24.4	742	470	146.5	232	54	854	832	1.11	1.08	583
3.3	24.5	745	341	137.0	228	51	740	716	0.95	1.35	540
7.4	24.7	751	526	136.0	215	49	672	654	0.85	0.68	494
9.5	24.7	751	462	140.0	228	54	794	776	1.01	0.99	567
9.6	23.9	726	435	140.3	224.3	52.5	766.3	750.0	1.01	1.04	545.8

出品 番号	血統			出品者 氏名	生年月日	導入 年月日	導入 体重
	父 牛	母の父	母方祖父				
37	第十光丸	菊重川	第五重川	坂口 英則	02/12/02	03/09/29	320
38		第二光泉	竜 花	米村 勇	02/11/17	03/09/03	339
39		第十重川	白 岩	赤星 信之	02/11/10	03/09/03	294
40		光 武	蘇 丸	末石 清昌	02/11/05	03/08/06	285
41		菊重川	第十重川	釘崎 高雄	02/10/28	03/09/20	341
平均							316
42	第三球泉	光武三	重 八	野田 太	03/01/12	03/10/19	327
43		第一重川	蘇 幸	岩本 則男	02/11/12	03/08/19	368
44		永 球	浜 藤	岡村 富雄	02/10/20	03/06/19	317
平均							337
45	第二重波	第九重宝	重 南	大淵 照明	02/11/25	03/09/19	331
46		中 堀	柄 浦	福田 和喜	02/11/10	03/09/19	300
47		第二春玉	光 花	岩本 光典	02/11/03	03/09/19	304
平均							312
48	光重E T	第三重川	竜 月	上田公一	02/11/15	03/09/03	247
49	光重E T	菊重川	光 泉	永江 一雄	02/11/08	03/08/09	251
50		第十重川	弦 重	産肉検定	02/10/19	03/09/03	410
平均							303
51	重波 1	信 春	重 波	高藤 辰己	02/11/28	03/09/19	376
52		第二重川	第三栄	和田 優助	02/11/10	03/07/18	305
平均							341
53	重球磨	第五球光	第六蘇殖	上村 誠	02/11/20	03/08/19	335
54		第三球泉	白 岩	別府 正春	02/11/20	03/10/19	302
平均							319
55	第五玉波	光 武	重 福	富永 和隆	02/12/20	03/09/18	336
56		第二重波	玉 波	阿蘇品 豊	02/12/03	03/07/18	319
平均							328
57	重重川	春 玉	第28重川	河瀬 憲雄	03/01/03	03/09/18	355
58		春 玉	重 栄	塚本 恭弘	02/10/20	03/09/18	319
平均							337
59	第七春玉	光 丸	第三重川	中川 文博	02/12/31	03/09/18	320
60	第二重光	重 谷	竜 花	上山 正之	02/12/17	03/09/21	339
61	球泉四	第六蘇殖	草 桜	古賀 武	02/12/10	03/10/19	371
62	重 南	光重川	初 宝	岩根 孝明	02/12/04	03/09/29	310
63	球泉一	第六蘇殖	重 月	甲斐志津香	02/12/04	03/08/19	310
64	第二光福	福 竜	重 福	上野 勝	02/12/01	03/10/05	356
65	重重波	第13重川	蘇 中	松岡 末吉	02/11/14	03/11/18	380
66	光 誉	福 重	岩 風	山田 林	02/11/11	03/09/29	340
67	重 優	光 武	金 時	川俣 靖昭	02/11/06	03/09/29	336
68	金 光	第十重川	原 美	下益城畜協	02/11/05	03/09/04	332
69	第三重川	第二重波	玉 波	荒木 清也	02/10/23	03/07/18	279
70	光重川	第六重宝	重 河	上田 誠	02/10/18	03/07/29	324
71	第二春玉	玉 波	第一重川	あか牛牧場	02/10/18	03/09/18	354
72	光 丸	初 宝	蘇 月	村山 康也	02/10/11	03/07/20	325
あか牛平均							327

導入 月齡	生後 月齡	生後 日齡	肥育 日数	体 型 測 定 値				と殺前 体 重	生後 DG	期間 DG	肥育度 指数
				体 高	胸 囲	寬 幅	着 体 重				
9.9	23.3	709	408	141.0	225	55	772	756	1.04	1.11	548
9.5	23.8	724	434	138.0	217	54	704	688	0.93	0.84	510
9.8	24.0	731	434	133.0	214	51	648	636	0.84	0.82	487
9.0	24.2	736	462	135.0	218	53	678	662	0.88	0.85	502
10.8	24.5	744	417	144.5	220	51	724	710	0.93	0.92	501
9.8	24.0	729	431	138.3	218.8	52.8	705.2	690.4	0.92	0.91	509.6
9.2	22.0	668	388	134.0	215	48	650	650	0.93	0.83	485
9.2	24.0	729	449	136.0	210	47	672	664	0.88	0.68	494
8.0	24.7	752	510	135.5	242	51	824	802	1.05	0.99	608
8.8	23.6	716	449	135.2	222.3	48.7	715.3	705.3	0.95	0.83	529.1
9.8	23.6	716	418	136.0	218	50	692	670	0.92	0.86	509
10.3	24.0	731	418	133.0	216	52	626	614	0.81	0.78	471
10.5	24.3	738	418	136.5	217	51	698	680	0.90	0.94	511
10.2	24.0	728	418	135.2	217.0	51.0	672.0	654.7	0.88	0.86	497.0
9.6	23.9	726	434	134.8	217	51	698	674	0.92	1.04	518
9.0	24.1	733	459	140.5	220	50	702	692	0.91	0.98	500
10.5	24.8	753	434	143.5	228	54	804	790	1.03	0.91	560
9.7	24.3	737	442	139.6	221.7	51.7	734.7	718.7	0.95	0.98	525.9
9.7	23.5	713	418	135.0	222	54	778	766	1.05	0.96	576
8.2	24.0	731	481	135.5	224	53	750	736	0.98	0.93	554
9.0	23.8	722	450	135.3	223.0	53.5	764.0	751.0	1.01	0.94	564.9
8.9	23.7	721	449	135.0	217	50	720	708	0.95	0.86	533
11.0	23.7	721	388	134.5	217	48	676	666	0.89	0.96	503
10.0	23.7	721	419	134.8	217.0	49.0	698.0	687.0	0.92	0.91	518.0
8.9	22.7	691	419	138.0	222	52	722	696	1.00	0.92	523
7.5	23.3	708	481	137.0	222	51	692	676	0.93	0.78	505
8.2	23.0	700	450	137.5	222.0	51.5	707.0	686.0	0.97	0.85	514.1
8.5	22.3	677	419	140.0	224	52	746	730	1.05	0.93	533
11.0	24.7	752	419	139.0	213	50	646	636	0.82	0.78	465
9.7	23.5	715	419	139.5	218.5	51.0	696.0	683.0	0.94	0.86	498.8
8.6	22.4	680	419	137.5	222	52	710	692	1.00	0.93	516
9.1	22.8	694	416	132.0	216	50	634	610	0.87	0.71	480
10.3	23.1	701	388	138.5	217	49	706	692	0.96	0.86	510
9.8	23.3	707	408	140.0	214	51	704	668	0.95	0.97	503
8.5	23.3	707	449	137.0	220	51	712	696	0.96	0.90	520
0.1	23.4	710	402	134.0	234	51	786	758	1.06	1.07	587
12.1	23.9	727	358	137.0	214	52	690	674	0.91	0.87	504
10.6	24.0	730	408	139.0	219	49	686	664	0.90	0.85	494
10.8	24.2	735	408	136.0	225	48	710	694	0.92	0.92	522
10.0	24.2	736	433	133.0	220	48	674	658	0.87	0.79	507
8.8	24.6	749	481	131.0	221	49	694	672	0.88	0.86	530
9.3	24.8	754	470	141.0	224	49	764	740	0.97	0.94	542
11.0	24.8	754	419	139.5	215	52	730	710	0.93	0.90	523
9.3	25.0	761	479	140.0	232	49	776	754	0.98	0.94	554
9.6	23.8	725	432	138.1	220.8	51.0	716.2	699.1	0.94	0.91	518.4

第 1 3 回熊本県肉畜共進会成績表 その 2

出品 番号	枝 肉 重 量	枝 肉 歩 留	ロース芯 面 積	ばらの 厚 さ	皮 下 脂 肪 厚	歩 留 基 準 値	枝 肉 単 価	売 上 格
1	419.0	64.3	58	6.0	2.3	73.8	1,920	829,360
2	479.5	66.4	51	7.5	2.9	72.6	1,980	978,773
3	486.9	68.0	51	7.0	3.6	71.6	1,930	968,780
4	455.5	66.2	51	7.0	3.1	72.5	1,700	798,298
5	488.5	65.5	54	6.4	3.4	71.7	1,910	961,891
6	416.0	65.2	49	6.8	2.5	73.1	2,000	857,731
7	423.0	65.9	52	7.2	2.5	73.6	2,400	1,046,597
8	484.4	65.8	60	7.7	2.3	74.5	2,370	1,183,534
9	392.0	65.3	51	7.5	2.5	74.1	3,000	1,212,371
10	441.4	66.5	57	7.5	2.5	74.2	1,940	882,800
11	413.4	69.1	46	7.0	2.8	72.6	1,500	639,278
12	477.9	66.9	61	8.4	2.4	75.0	4,000	1,970,721
13	439.0	67.5	62	6.5	1.5	75.2	2,400	1,086,185
14	482.5	65.2	56	7.3	2.0	74.0	2,590	1,288,324
15	491.4	67.7	49	7.9	3.9	71.5	1,530	775,094
平均	452.7	66.4	53.9	7.2	2.7	73.3	2,211	1,031,982
16	423.0	65.5	51	6.8	2.7	73.0	2,340	1,020,432
17	486.9	64.7	57	7.5	2.2	73.9	2,000	1,003,917
18	474.9	65.8	49	7.7	3.8	71.7	2,090	1,023,238
19	466.5	66.1	60	7.3	1.9	74.7	2,000	961,855
20	443.0	64.6	51	7.0	2.5	73.1	1,900	867,731
21	490.4	64.2	48	7.3	2.5	72.4	1,730	874,630
22	518.5	68.2	51	8.0	2.0	73.3	2,400	1,282,886
23	496.9	66.1	49	7.9	3.3	72.1	2,300	1,178,216
24	443.0	66.3	51	6.8	2.5	73.0	2,510	1,146,319
25	446.9	64.8	51	6.4	2.7	72.4	2,500	1,151,804
26	456.0	64.2	50	7.2	1.9	73.6	1,540	723,958
27	392.0	66.2	49	6.5	3.2	72.5	2,210	893,113
28	523.9	66.7	59	7.3	3.3	72.7	1,870	1,009,992
29	450.0	66.2	48	6.6	2.8	72.1	1,440	668,041
30	467.9	66.7	50	7.8	2.6	73.1	2,040	984,037
平均	465.3	65.7	51.6	7.2	2.7	72.9	2,058	986,011
31	490.0	63.0	50	7.7	2.5	72.9	2,010	1,015,360
32	496.9	66.8	50	7.1	3.5	71.6	1,800	922,082
33	549.0	66.0	50	7.1	3.7	70.7	2,540	1,437,587
34	456.0	63.7	48	8.0	2.3	73.4	2,400	1,128,247
35	420.4	64.3	48	6.5	2.4	72.7	1,500	650,103
36	506.5	65.3	58	7.4	2.1	73.8	2,370	1,237,530
平均	486.5	64.8	50.7	7.3	2.8	72.5	2,103	1,065,152

格付 等級	脂肪交雑		肉の色沢			締まり及びきめ			脂肪の色沢と質			瑕疵
	BMS	等級	BCS	光沢	等級	シマリ	きめ	等級	BFS	光質	等級	
A-3	4	3	4	4	4	3	4	3	2	5	5	
A-3	3	3	4	3	3	3	3	3	2	5	5	
B-3	4	3	3	4	4	3	4	3	2	5	5	
A-3	3	3	4	3	3	3	3	3	2	5	5	
B-3	3	3	4	3	3	3	4	3	2	5	5	
A-3	5	4	4	4	4	3	4	3	2	5	5	
A-4	5	4	4	4	4	4	4	4	2	5	5	
A-4	5	4	4	4	4	4	4	4	2	5	5	
A-5	8	5	4	5	5	5	5	5	2	5	5	
A-3	4	3	4	3	3	3	4	3	2	5	5	
A-3	3	3	4	3	3	3	3	3	2	5	5	
A-5	8	5	3	5	5	5	5	5	2	5	5	
A-4	5	4	4	4	4	4	4	4	2	5	5	
A-4	8	5	3	5	5	4	5	4	2	5	5	
B-3	3	3	4	3	3	3	3	3	2	5	5	
	4.7	3.7	3.8	3.8	3.8	3.5	3.9	3.5	2.0	5.0	5.0	
A-4	6	4	4	4	4	4	5	4	2	5	5	
A-3	4	3	4	3	3	3	4	3	2	5	5	
B-3	4	3	3	4	4	3	4	3	2	5	5	
A-3	5	4	4	4	4	3	4	3	2	5	5	
A-3	4	3	4	4	4	3	4	3	2	5	5	
A-3	4	3	4	4	4	4	3	3	2	5	5	
A-4	6	4	4	4	4	4	4	4	2	5	5	
A-4	5	4	4	4	4	4	4	4	2	5	5	
A-4	5	4	4	4	4	4	4	4	2	5	5	
A-4	5	4	3	4	4	4	4	4	2	5	5	
A-3	3	3	5	3	3	3	3	3	2	5	5	
A-4	6	4	3	4	4	4	5	4	2	5	5	
A-3	4	3	4	3	3	3	3	3	2	5	5	
A-3	3	3	3	3	3	3	4	3	2	5	5	
A-3	4	3	4	4	4	3	4	3	2	5	5	
	4.5	3.5	3.8	3.7	3.7	3.5	3.9	3.4	2.0	5.0	5.0	
A-3	4	3	4	3	3	3	4	3	2	5	5	
B-3	5	4	4	4	4	3	4	3	2	5	5	
B-4	5	4	4	4	4	4	4	3	2	5	5	
A-4	6	4	4	4	4	4	4	4	2	5	5	
A-3	3	3	5	3	3	3	3	3	2	5	5	
A-4	6	4	4	4	4	4	5	4	2	5	5	
	4.8	3.7	4.2	3.7	3.7	3.5	4.0	3.3	2.0	5.0	5.0	

出品 番号	枝肉 重量	枝肉 歩留	ロ-芯 面積	ばらの 厚さ	皮下 脂肪厚	歩留 基準値	枝肉 単価	売 上 格
37	505.5	66.9	51	7.5	2.1	73.1	1,830	953,675
38	439.0	63.8	53	6.9	1.5	74.2	1,830	828,216
39	387.9	61.0	47	5.9	2.3	72.7	1,700	679,824
40	442.5	66.8	51	7.6	2.7	73.4	2,430	1,108,530
41	450.4	63.4	60	7.0	1.8	74.8	2,150	998,309
平均	445.1	64.4	52.4	7.0	2.1	73.6	1,988	913,711
42	420.9	64.8	49	6.7	2.0	73.4	2,300	998,010
43	420.0	63.3	50	7.0	3.0	72.8	2,030	878,969
44	542.5	67.6	56	8.4	3.8	72.3	2,070	1,157,706
平均	461.1	65.2	51.7	7.4	2.9	72.8	2,133	1,011,562
45	423.9	63.3	51	7.3	1.9	74.1	2,470	1,079,415
46	421.4	68.6	47	7.0	2.7	72.6	2,400	1,042,639
47	443.4	65.2	47	7.4	2.0	73.3	1,900	868,515
平均	429.6	65.7	48.3	7.2	2.2	73.3	2,257	996,856
48	436.0	64.7	43	6.6	2.2	72.2	1,720	773,113
49	453.0	65.5	50	7.5	2.4	73.3	2,030	948,030
50	526.9	66.7	46	8.2	3.3	71.5	2,100	1,140,711
平均	472.0	65.6	46.3	7.4	2.6	72.3	1,950	953,951
51	500.0	65.3	61	8.4	2.0	75.1	1,720	886,597
52	482.0	65.5	52	8.5	2.8	73.5	1,700	844,742
平均	491.0	65.4	56.5	8.5	2.4	74.3	1,710	865,670
53	443.0	62.6	46	7.1	1.8	73.1	1,610	735,288
54	440.0	66.1	55	6.9	2.5	73.6	1,810	821,030
平均	441.5	64.3	50.5	7.0	2.2	73.4	1,710	778,159
55	449.5	64.6	46	7.5	1.8	73.4	1,820	843,391
56	429.0	63.5	57	7.3	3.0	73.9	2,290	1,012,793
平均	439.3	64.0	51.5	7.4	2.4	73.7	2,055	928,092
57	475.5	65.1	54	7.5	2.9	73.0	2,200	1,078,453
58	412.0	64.8	57	7.1	2.2	74.6	2,100	891,958
平均	443.8	65.0	55.5	7.3	2.6	73.8	2,150	985,206
59	431.4	62.3	48	6.9	2.1	73.2	1,870	831,668
60	406.5	66.6	41	5.7	1.7	72.1	800	335,257
61	434.4	62.8	56	6.8	2.4	73.8	1,310	586,663
62	422.0	63.2	51	6.0	2.0	73.2	1,310	569,917
63	471.4	67.7	56	8.1	2.5	74.1	2,420	1,176,070
64	482.0	63.6	59	8.3	2.7	74.4	1,910	949,092
65	437.4	64.9	49	7.4	1.6	74.0	1,800	811,670
66	433.0	65.2	53	7.4	2.3	73.9	1,220	544,597
67	459.5	66.2	47	6.7	2.7	72.0	1,410	667,932
68	427.9	65.0	58	7.4	4.3	72.8	2,600	1,146,948
69	449.0	66.8	49	8.4	4.0	72.4	2,300	1,064,639
70	475.5	64.3	57	6.4	2.6	73.0	2,030	995,118
71	450.0	63.4	52	6.3	2.4	72.8	2,000	927,835
72	493.4	65.4	58	7.2	3.6	72.6	1,680	854,548
平均	457.0	65.4	52.1	7.2	2.6	73.2	2,021	954,065

格付 等級	脂肪交雑		肉の色沢			締まり及びきめ			脂肪の色沢と質			瑕 疵
	BMS	等級	BCS	光沢	等級	シマ	きめ	等級	BFS	光質	等級	
A-3	4	3	4	3	3	4	4	3	2	5	5	
A-3	4	3	4	3	3	3	4	3	2	5	5	
A-3	4	3	5	3	3	3	4	3	2	5	5	
A-4	6	4	4	4	4	4	4	4	2	5	5	
A-4	5	4	4	4	4	4	4	4	2	5	5	
	4.6	3.4	4.2	3.4	3.4	3.6	4.0	3.4	2.0	5.0	5.0	
A-4	5	4	4	4	4	4	4	4	2	5	5	
A-3	4	3	4	4	4	3	4	3	2	5	5	
A-4	6	4	4	4	4	4	4	4	2	5	5	
	5.0	3.7	4.0	4.0	4.0	3.7	4.0	3.7	2.0	5.0	5.0	
A-4	6	4	4	4	4	4	4	4	2	5	5	
A-4	7	4	4	5	5	5	5	5	2	5	5	イ
A-3	4	3	4	3	3	3	3	3	2	5	5	
	5.7	3.7	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	2.0	5.0	5.0	
A-3	4	3	4	3	3	3	3	3	2	5	5	
A-3	5	4	4	3	3	3	4	3	2	5	5	
B-4	5	4	4	4	4	4	4	4	2	5	5	
	4.7	3.7	4.0	3.3	3.3	3.3	3.7	3.3	2.0	5.0	5.0	
A-3	4	3	4	3	3	3	4	3	2	5	5	
A-3	4	3	3	3	3	3	4	3	2	5	5	イ
	4.0	3.0	3.5	3.0	3.0	3.0	4.0	3.0	2.0	5.0	5.0	
A-3	3	3	5	3	3	3	3	3	2	5	5	
A-3	4	3	4	3	3	3	3	3	2	5	5	
	3.5	3.0	4.5	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.0	5.0	5.0	
A-3	4	3	4	3	3	3	3	3	2	5	5	
A-4	6	4	3	4	4	4	5	4	2	5	5	
	5.0	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	4.0	3.5	2.0	5.0	5.0	
A-4	6	4	4	4	4	4	4	4	2	5	5	
A-4	5	4	4	4	4	4	4	4	2	5	5	
	5.5	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	2.0	5.0	5.0	
A-3	4	3	4	3	3	3	4	3	2	5	5	
A-3	4	3	5	3	3	3	4	3	2	5	5	イ
A-3	5	4	4	3	3	4	4	4	2	5	5	
A-3	3	3	4	3	3	3	3	3	2	5	5	
A-4	6	4	4	4	4	4	4	4	2	5	5	
A-4	5	4	4	4	4	4	4	4	2	5	5	
A-4	5	4	3	4	4	4	4	4	2	5	5	イ
A-2	3	3	5	2	2	2	3	2	2	5	5	イ
A-3	3	3	4	3	3	3	3	3	2	5	5	
A-4	6	4	4	4	4	4	4	4	2	5	5	
A-3	4	3	3	4	4	3	4	3	2	5	5	
A-3	3	3	5	3	3	3	3	3	2	5	5	
A-4	5	4	4	4	4	4	4	4	2	5	5	
A-3	5	4	5	3	3	3	4	3	2	5	5	
	4.6	3.5	4.0	3.6	3.6	3.5	3.9	3.4	2.0	5.0	5.0	

## 会 報

### ○ 監査会

平成4年5月7日午前10時より、本会事務局において定期監査会が開催された。古閑、川内両監事と、山本監事代理として瀬口熊本県畜産課長が出席し、平成3年度事業成績ならびに収支決算、関係書類、諸帳簿等の整理状況、その他会務運営全般について監査が実施された。なお熊本県支部の監査も同時に行われた。

### ○ 理事会

平成4年5月21日午後3時より、熊本市桜木6丁目熊本県畜産会館において理事会を開催し、平成4年度通常総会に提案する議案5件について審議、いずれも原案通り承認可決した。

### ○ 通常総会

平成4年5月22日午前10時より、熊本市大江2丁目熊本県立劇場において平成4年度通常総会を開催した。当日は農水省畜産局家畜生産課塩田課長補佐、熊本県知事（代理瀬口幸介畜産課長）など来賓と、各県支部から多数の関係者が出席し、下記の議案について審議、いずれも原案通り承認可決した。

1. 平成3年度収支予算書の補正の件
2. 平成3年度事業報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、財産目録及び貸借対照表の承認の件
3. 平成4年度事業計画書（案）及び収支予算書（案）の承認の件
4. 創立40周年記念式典に関する件
5. 監事の補欠選任の件

### ○ 監事補欠選任結果

山本達雄監事及び古閑光吉監事の辞任に伴う補欠選挙の結果、次の二氏が監事に選任された。

瀬口幸介（熊本県畜産課長）、平野文夫（南関郷農協長）



## ○ 中央審査委員会

平成4年11月11日、熊本県阿蘇郡久木野村の「グリーンピア南阿蘇」において第1回の中央審査委員会を開催した。協議事項ならびに出席者は次の通り。

(協議事項)

1. 平成4年度優良肉用牛資源有効活用促進事業（品種別選定基準検討）について
2. あか牛改良推進全国研究会について
3. 登録制度の改正（案）について
4. その他

(出席者)

(委員)

滝本勇治、寺田隆慶、古賀 脩、岡本 悟、阿部恒夫、原田 宏、三輪良作  
宮腰和男、高橋辰雄、佐藤善英、大場健次、橋本健士、木場俊太郎  
後藤孝一、中島宣好、浅田 駿、工藤四朗、大津建治、広津幹生、永里哲光  
今村 来、城 光宣、黒肥地一郎、工藤益雄、松川昭義、児玉一宏

(代理出席)

渡邊順一（北海道支部）

(来賓)

岩元周二（家畜改良センター阿蘇支場）、高野敏則（熊本県畜産課）

(本会)

会長 續 省三

## ○ 中央審査委員会小委員会

第1回 期 日 平成4年7月2日

場 所 熊本県畜産会館

協議事項 ①登録規程の改正（案）について

②審査細則の改正（案）について

出席者 浅田 駿、上田一明、工藤四朗、大津建治、広津幹生  
永里哲光、松川昭義、児玉一宏、川崎広通

第2回 期 日 平成4年8月10日

場 所 熊本県畜産会館

協議事項 ①登録規程改正(案)、審査細則改正(案)について  
②その他

出席者 古賀 脩、岡本 悟、木場俊太郎、後藤孝一、浅田 駿  
上田一明、工藤四朗、大津建治、広津幹生、永里哲光  
黒肥地一郎、高野敏則、松川昭義、児玉一宏、川崎広通

第3回 期 日 平成5年1月13日

場 所 熊本県畜産会館

協議事項 ①事務報告  
②平成4年度 登録事業の進捗について  
③平成4年度 優良肉用牛資源有効活用促進事業に係る  
選定基準策定について  
④農林水産省の指示に基づく登録規程改正案の再検討に  
ついて

出席者 古賀 脩、浅田 駿、上田一明、工藤四朗、大津建治  
広津幹生、高野敏則、野田眞良、大村直純、武田一巳  
三森俊昭、田中 豊、深水孝範、續 省三、松川昭義  
児玉一宏、川崎広通

## ○ 全国あか牛研究会

平成4年11月11日、12日の両日熊本県阿蘇郡久木野村及び高森町に、全国から約170名の関係者が参集し、あか牛改良推進全国研究会を開催した。

初日は、久木野村のグリーンピア南阿蘇を会場に登録協議会を開催し、来年度から実施予定の産肉能力を重視した登録制度改正案について検討を行った。

つづいてシンポジウムに移り、農林水産省草地試験場の寺田室長より「母方種雄牛と交配種雄牛の組み合わせと肉質」、宮崎大学の原田助教授より「あか牛の産肉能力の向上と超音診断技術の応用」というテーマで話題提供の講演が行われ、それぞれのテーマについて活発な議論が繰り広げられた。

翌日は高森町の南阿蘇畜産農協に会場を移し、まず南阿蘇畜産農協の後藤課長より、南阿蘇で進めている肉質改良システムについて説明があった。つづいて登録審査対象牛を用いて審査眼統一のための研究会、優秀な肥育牛を生産した繁殖牛系統の展示説明ならびに超音波による肉質判定実習が行われた。最後に各道県の担当者よりあか牛の現状ならびに改良の進め方等について報告があった。

## ○ 農水省法人検査

農林水産大臣の所管に属する公益法人の業務及び財産状況等の検査が、平成4年11月18日、菊地令農林水産技官、鈴木昇農林水産事務官を迎え本会事務局で行われた。なお、下記の検査項目について説明に当たり検査の結果無事終了した。

- (1) 事業の運営状況
- (2) 庶務の処理状況
- (3) 会議の運営状況
- (4) 組織の状況
- (5) 財産の管理状況
- (6) 会計経理の状況
- (7) その他

## ○ 創立40周年記念式典

本会創立40周年記念式典は、5月22日午前11時より、熊本市大江2丁目熊本県立劇場大会議室で挙行了た。

当日は農林水産大臣代理として山下家畜改良センター所長をはじめ、熊本県木村出納長（知事代理）など多数の来賓の臨席と、全国各道県より約200名の関係者が出席して開式した。まず、續会長の式辞があり、農林水産大臣感謝状が今村、加藤両副会長へ、畜産局長感謝状が高田常務理事、城理事へ授与された。つづいて、本会長から熊本県畜産研究所に特別感謝状が、また各部門においてそれぞれ功劳のあった関係者に対し感謝状ならびに表彰状を贈呈。農林水産大臣（代理）などの祝辞があり、あか牛を取り巻く厳しい状況を打破するために生産者3名があか牛振興意見発表を行った。最後にスローガンを採択し、協会の将来の

発展を期して万歳三唱し式を終了した。

【記念式典次第】

1. 開式の辞
2. 会長式辞
3. 感謝状・表彰状贈呈
  - (1) 農林水産大臣・畜産局長感謝状贈呈
  - (2) 本会長感謝状・表彰状贈呈
4. 来賓祝辞  
農林水産大臣  
熊本県知事  
中央畜産会長（畜産関係団体代表）
5. あか牛振興意見発表会
6. スローガン採択
7. 万歳三唱
8. 閉式の辞

---

## ◎ 式 辞

会 長 糸 廣 省 三

本日、ここに 社団法人日本あか牛登録協会創立40周年記念式典を挙行いたしましたところ、全国各地より会員代表、ならびに関係者の方々、多数のご参列を頂きまして、誠に有難く厚く御礼申し上げます。

また公務ご多用のところ、農林水産大臣殿、ならびに熊本県知事殿、はじめ、社団法人中央畜産会長殿その他来賓多数のご臨席を賜りましたことは、私共関係者として誠に有難く、衷心より深く感謝申し上げます。

本会は、戦後のわが国農業がようやく復興期を迎えた昭和27年に、長崎・熊本の2県の関係者の発起によって、あか牛の特色をさらに發揮すべく改良を目的として誕生して以来、既に40年の歳月を重ねました。

その間、日本経済の発展はめざましく、社会情勢や農業構造は大きく変化し、

あか牛についても時代の要請とともに、役用から肉用へ転換するなど幾多の課題と直面しながらも、歴代会長をはじめ、本日ここにご出席の皆様方のご努力により、今日、あか牛がわが国農業の一部門として貢献し、さらに早熟性や産肉能力について肉用牛として注目と評価を得るに至りましたことは、誠にご同慶にたえません。ここに、深く感謝の意を表したいと存じます。

また、この40年の長い期間を振り返りますと、あか牛の持つ特性を生かしてその改良と増殖に努力された幾多の先人のなかには、すでに故人となられた方々も多く、ここにそのご苦労とご功績をしのび、御霊に感謝のまことをささげたいと思います。

ご承知のように、昨年からの牛肉輸入自由化により、肉用牛をとりまく諸情勢はまことに厳しく、あか牛にとって正に試練の時期が訪れたと考えます。

このような情勢の中で、あか牛登録協会としては、各道県支部のご協力を得て本来の登録事業を推進することに併せて、国道県が事業主体となって推進している肉用牛群改良基地育成事業に積極的に協力するほか、本協会独自の事業として肉質改善基礎牛の選定及び認定を行い、また、超音波検査による優良牛の選抜や枝肉情報の収集など、肉質改善を最重点課題として、育種改良事業の推進に努めて参りました。私どもは、今後とも広い視野と将来への展望に立って、あか牛の肉質改良に一層努力する一方、生産コストの低減を図るよう努めて参る考えであります。この試練の時に迎えた40周年を契機として、今こそ一万二千名余の会員の皆様とともに、さらに結束を固めながら、あか牛の一大飛躍のために邁進しなければならないと存じますので、本協会会員の皆様はじめ関係者の皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。

また、本日ご出席を賜りました農林水産省ならびに熊本県はじめ各道県など行政機関、及び関係諸団体のより一層のご指導とご支援をいただきますようお願い申し上げます。式辞といたします。

## ◎ 祝 辞

農林水産大臣 田名部匡省

本日ここに、社団法人日本あか牛登録協会創立40周年記念式典が開催されるに当たり、一言お祝いを申し上げます。

ご承知の通り、畜産は今や稲作と並ぶ我が国農業の基幹的部門に成長するとともに、国民食生活においても重要な位置を占めるに至っておりますが、畜産をめぐる情勢は、昨年4月から牛肉の輸入数量制限が撤廃されるなど厳しいものとなっております。

このような状況の下で、我が国内用牛生産については、生産性の向上による生産コストの引下げを基本としつつ、消費者ニーズに的確に対応し、安全で品質の優れた牛肉の生産を進めることが重要となっており、このため、農林水産省といたしましては、平成4年度において、担い手の育成、確保、畜産新技術の実用化普及等に重点を置いて、新たに畜産活性化総合対策として各般の施策を総合的に実施しているところであります。

さて、あか牛については、九州を中心として東北、北海道等の各地で十数万頭が飼養されておりますが、これらの地域の厳しい自然条件に適応しており、放牧適性に富み、しかも、肉用牛として優れた産肉性を備えております。このため、国土資源を有効活用する上でも、また、良質かつ低コストな牛肉を生産する上でも今後ともあか牛には大きな期待が寄せられているところであります。

しかしながら、最近においては、あか牛の子牛価格等が低下していることからあか牛の地方特定品種としての重要性にかんがみ、本年度緊急的に資源確保対策を図るとともに、安定的な流通販売体制の整備等生産から流通にわたる総合的な対策を実施することとした次第であります。

貴協会は、これまであか牛の改良増殖の推進母体として様々な活動をしてこられ、それらは、高く評価されているところであります。貴協会におかれましてはこの度の創立40周年記念式典を契機として、一層事業の拡充強化に務められ、あか牛の特長を生かした改良増殖の推進を通じて、我が国内用牛生産の発展にますます寄与されますよう切望いたします。

最後に、発足以来今日まで数多くの苦難を乗り越え、日本あか牛登録協会の

今日を築いてこられた関係各位に対し、衷心より敬意を表しますとともに、本日御出席の皆様方のますますの御発展を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉といたします。

## ◎ 祝 辞

社団法人 中央畜産会会長 山中貞則

社団法人日本あか牛登録協会の設立40周年記念式典に当たり一言お祝いを申し上げます。

貴協会の発足当時は、戦後の我が国農業の再建策の中で、有畜農業の振興が大きく叫ばれていた時代でしたが、その後、経営規模拡大の重要性や、畜産物需要の飛躍的な増大等、我が国畜産をめぐる情勢の変化に対応し、特に草資源の利用面で優れた特性をもつ褐毛和種等の「日本のあか牛」が担って参りました功績には誠に顕著なものがあり、この振興における中心的機関としての貴協会のこれまでの御苦労に対し、ここに更めて敬意を表したいと思います。

特に、褐毛和種は単に熊本県内にとどまらず、北海道や秋田県等々全国の十数県において飼養されておりますが、地元阿蘇地域での畜産開発に象徴されます通り、我が国草地畜産振興面での重要な畜種として、それぞれの立地に適しつつ地域振興の一翼を担ってきておりますことは、優秀な種畜供給等、その普及・定着に御苦労を頂いて参りました地元熊本県内関係者の大きな功績でもあると感謝いたしております。

御承知の通り、我が国の畜産は昨年牛肉輸入自由化以降、かつて経験したことのない厳しい時代に入っており、特に最近の子牛価格の推移等をみますと、乳用雄子牛をはじめ褐毛和種や日本短角種等の下落が目立ってきております。この要因は輸入牛肉との肉質面での競合にあると思いますが、現在、畜産に関する技術はバイオテクノロジー等の応用面で大きな実績をあげつつあり、これらの技術が褐毛和種等のこれからの肉質改善面で果たす可能性は極めて高く、それだけにこの先移転を契機に体制強化が計画されている家畜改良センター熊本牧場や地元熊本県畜産研究所等のこれからの活躍に期待する面も大きいのであります。

また、国においては、関税収入を特定財源とする肉用子牛生産安定等特別措置法の発動により、既に生産者補給金の交付が数次にわたり実施されてきている程に、厳しい時代ですが、肉用牛は農業の根幹を支える基軸であり、これからも特に、中山間地域の活性化等のため一層の振興を期してゆかねばなりません。

低コスト・高品質な牛肉生産というこれからの課題への対応において、すばらしい資源を秘めた「日本あか牛」に関し、長い歴史と実績をもたれる貴協会をはじめ関係各位が一層結束を固められ、この振興に邁進していただくことをお願いいたしますとともに、日本あか牛登録協会の益々の御発展を御祈念申し上げましてお祝いの言葉といたします。

## ◎ 祝 辞

熊本県知事 福島 義二

全国のあか牛関係者多数のご臨席のもと、日本あか牛登録協会創立40周年記念式典が開催されるにあたり、地元県として一言ご挨拶を申し上げます。

戦後の復興期である昭和27年4月に誕生した日本あか牛登録協会は、その後の高度経済成長期から国際化の時代へと大きく変遷する中で、常に時代が要請するあか牛の育種改良に積極的に取り組まれ、その結果、あか牛は全国の肉専用種の中でも、特に産肉能力の優れた品種として高い評価を受けるに至っております。これもひとえに日本あか牛登録協会をはじめ関係者の皆様の御尽力のたまものと深く敬意を表する次第でございます。

ご承知のとおり、牛肉の輸入自由化が昨年4月から実施され、国内の牛肉消費量の約5割を輸入牛肉で占めるに至っております。

このように牛肉の輸入量が増加するなかで、輸入牛肉と品質的に競合する国内産の牛肉価格が低落し、その影響で、あか牛の子牛価格も本年2月から30万円を割り込み、4月には26万円程度まで低下しております。

このような厳しい環境の時に、あか牛の現状を踏まえ、将来の発展方策を展開するため、日本あか牛登録協会創立40周年記念式典が開催されますことは、誠に意義深いものと考えられます。



本日ここにご参集の皆様方の英知を結集し、あか牛のもつ発育の良さ、温順で粗飼料の利用性の高さなどの特長を生かし、肉質向上を計るための育種改良を推進すれば、必ずやあか牛は国際競争のなかでも十分太刀打ちのできる品種であると確信したしております。

このため、本県では、あか牛の計画交配や能力検定による優良種畜の造成をはじめ、受精卵移植による種雄牛づくり、超音波診断による優良雌牛の選抜、コンピュータを利用した枝肉情報の分析など新しい技術を積極的に取り入れ、あか牛の改良と品質向上に務めているところです。

その結果、現在活躍している「第十光丸」をはじめ、これに匹敵する新しい優良な種雄牛もできつつあり、また、あか牛の特長を生かし「スソ物」の割合が1割を切る高い技術の肥育地帯も育ってきております。

一方、最近の子牛価格の低落に対処するため、国及び関係団体と力を合わせて、緊急的に地方特定品種総合活性化対策等を実施することといたしております。本県は、あか牛の原種生産県として、全国各地に繁殖用子牛や肥育もと牛を供給しておりますが、今後とも本県の恵まれた立地条件を生かしながら、新しい技術を駆使した国際競争に打ち勝つあか牛の改良と振興を図る所存でございますので、皆様方の一層の御支援、御尽力をお願いする次第でございます。

最後になりましたが、ただ今、表彰の栄に輝かれた皆様に、心からお慶びを申し上げますとともに、この創立40周年を一つの節目として、日本あか牛登録協会が益々発展されることを祈念しまして祝辞といたします。

---

## ◎ 功 労 者 名 簿

### 1. 農林水産大臣感謝状贈呈者

今村 来 (副会長)

加藤 義孝 (副会長)

### 2. 畜産局長感謝状贈呈者

高田昭二郎 (常務理事)

城 光宣 (元常務理事)

### 3. 本会長感謝状・表彰状贈呈者

(1) 特別感謝状贈呈

熊本県畜産研究所

(2) 表彰状贈呈

I. 永年勤続者（10年以上、但し30周年で表彰を受けられた方を除く）

ア. 役員（理事、監事）、支部長、支部役員

加藤 義孝（秋田県）	鈴木 一則（静岡県）
田浦 豊（長崎県）	国武 博（熊本、矢部）
高田昭二郎（熊本、球磨）	舟津 義光（熊本、東肥）

イ. 審査委員（中央審査委員、地方審査委員）

岡本 悟（佐賀大学）	滝本 勇治（東北農試）
寺田 隆慶（草地試験場）	入澤 充穂（北海道）
三輪 良作（北海道）	横山 国明（宮城県）
高橋 昭郎（宮城県）	大場 健次（静岡県）
関 伸二郎（静岡県）	寺田 孝（静岡県）
阿比留三郎（長崎県対馬）	大森 英之（長崎県）
井上 泰孝（長崎県）	今道 克幸（長崎県）
上田 一明（熊本県）	中島 宣好（熊本県）
高巢 泰廣（熊本、玉名）	高橋 正良（熊本、小国）
武田 一己（熊本、小国）	後藤 幸男（熊本、南阿蘇）
福田 耕志（熊本、下益城）	田中 豊（熊本、下益城）
深水 勇治（熊本、球磨）	川原 勝利（熊本、天草）
梅田 一友（熊本）	

ウ. 職員（支部及び本部職員）

畠山エチ子（秋田、北秋田）	木部 貞子（熊本、玉名）
川口 博和（熊本、鹿本）	梅田 政之（熊本、南阿蘇）
藤本 憲一（熊本、矢部）	内布 寛（熊本、球磨）
谷川 貞義（熊本、球磨）	高木 敏江（熊本、球磨）
児玉 一宏（本会）	

II. 優良農家（あか牛の生産改良又は普及活動に情熱をささげ、

地域の模範とされている優良農家）

村岡 春三（秋田、北秋田）	西根 頼明（秋田、阿仁東部）
佐々木卓郎（秋田、山本）	板宮 勇三（宮城、大郷）
堀籠 禎（宮城、大和）	小宮 武美（対馬、上県）
大野 秀人（熊本、玉名）	松島 勝（熊本、玉名）
吉里 正士（熊本、鹿本）	川上 正男（熊本、鹿本）
横田 隆博（熊本、鹿本）	原口 忠敬（熊本、鹿本）
古井 武敏（熊本、鹿本）	境野 義男（熊本、鹿本）
坂口 一郎（熊本、菊池）	高宮 民雄（熊本、菊池）
村山 勉（熊本、東肥）	東 徳義（熊本、東肥）
上田 元子（熊本、東肥）	田中 盛好（熊本、東肥）
原山 輝義（熊本、小国）	武田 末勝（熊本、小国）
宗像 信雄（熊本、小国）	高橋 幾春（熊本、阿蘇）
石山 勝昭（熊本、阿蘇）	堀 二三男（熊本、阿蘇）
園田 尽（熊本、阿蘇）	小野 秋義（熊本、阿蘇）
湯浅 陸雄（熊本、阿蘇）	竹原 学（熊本、阿蘇）
坂口 静義（熊本、阿蘇）	小坂今朝和（熊本、阿蘇）
江良 一郎（熊本、阿蘇）	西村 光（熊本、阿蘇）
後藤 尚文（熊本、阿蘇）	高倉 国孝（熊本、南阿蘇）
荒牧 末男（熊本、南阿蘇）	川部 盛親（熊本、南阿蘇）
工藤ケサミ（熊本、南阿蘇）	矢津田武寿（熊本、南阿蘇）
赤木 竹利（熊本、南阿蘇）	増田喜久吉（熊本、南阿蘇）
今村 忠（熊本、南阿蘇）	本田 実（熊本、南阿蘇）
島田 幸久（熊本、南阿蘇）	後藤 力雄（熊本、南阿蘇）
安方 広光（熊本、南阿蘇）	後藤 文数（熊本、南阿蘇）
岩下 松士（熊本、南阿蘇）	山辺 光男（熊本、南阿蘇）
穴見 智（熊本、南阿蘇）	後藤 和雄（熊本、南阿蘇）
山室 健蔵（熊本、南阿蘇）	下田 勇雄（熊本、南阿蘇）
藤崎 義則（熊本、南阿蘇）	村上 末広（熊本、南阿蘇）

林田 光信 (熊本、南阿蘇)	赤星 義次 (熊本、南阿蘇)
錦野 徳俊 (熊本、南阿蘇)	梅田 穣 (熊本、矢部)
芹口 守 (熊本、矢部)	戸高 一三 (熊本、矢部)
中村 家継 (熊本、矢部)	南野 英昭 (熊本、矢部)
井上 敬慎 (熊本、矢部)	米山 卓 (熊本、下益城)
中村 秋雄 (熊本、下益城)	辰井千代勝 (熊本、下益城)
藤坂 光秋 (熊本、下益城)	坂口 厚司 (熊本、球磨)
岩本 則男 (熊本、球磨)	久保田文男 (熊本、球磨)
荒木英一郎 (熊本、球磨)	水長 一喜 (熊本、球磨)
栗秋 和弘 (熊本、球磨)	愛甲 明生 (熊本、球磨)
田原 哲男 (熊本、球磨)	浜田 武保 (熊本、球磨)
丸目 龍喜 (熊本、球磨)	福山 紀元 (熊本、球磨)
万江 孝臣 (熊本、球磨)	

### Ⅲ. 優良団体 (生産改良組合等を組織し、地域ぐるみであか牛振興を推進している優良団体)

琴丘町川岱肉用牛生産組合	(秋田、山本)
大郷町農協繁殖牛部会	(宮城、大郷)
大和町農協繁殖牛部会	(宮城、大和)
一産会	(熊本、鹿本)
木原野肉用牛生産小組合	(熊本、菊池)
鞍嶽肉用牛研究会	(熊本、東肥)
阿蘇小国農協和牛生産改良部会	(熊本、小国)
湯田畜産部会	(熊本、小国)
尾ヶ石和牛部会	(熊本、阿蘇)
波野青年和牛部会	(熊本、阿蘇)
上田尻牧野組合	(熊本、阿蘇)
錦野あか牛研究会	(熊本、南阿蘇)
祭場肉用牛生産クラブ	(熊本、南阿蘇)
市野尾畜産部会	(熊本、南阿蘇)

清和村あか牛振興協議会	(熊本、矢部)
弦巻和牛生産改良組合	(熊本、下益城)
松橋和牛生産改良組合	(熊本、下益城)
赤池水無褐牛部会	(熊本、球磨)
もうしん会	(熊本、球磨)
一産会	(熊本、球磨)

## ◎ あか牛振興スローガン

1. あか牛関係者は今こそ団結し  
輸入牛肉に打ち勝つ牛づくりを進めよう
2. 草資源の有効利用と自給飼料の生産を拡大し  
低コストによるあか牛生産を推進しよう
3. 登録の重要性を認識し 母牛の改良により  
肉質の改善向上に務めよう
4. グループ活動を積極的に行い  
規模拡大による肉用牛振興を図ろう
5. 肉用牛中心の複合経営を進め  
地力増進による安定した農業経営を確立しよう

# 平成3年度 事業報告書

## 1. 概況

平成3年度は、国内ではバブル経済崩壊に伴う景気の後退、さらには火山噴火や大型台風など自然災害の発生、また外にあってはウルグアイラウンド農業交渉の難行といった暗い出来事が多く、わが国の農業を巡る情勢は年間を通して厳しいものとなった。

その中でも、牛肉自由化初年度を迎えた肉用牛界にあっては、その影響がしだいに拡大化してきており、特にあか牛については年度後半から子牛価格が急落するなど、このままの状態が続けば今後再生産が維持されるかどうか、まさに正念場を迎えている。

このような情勢の中で、本会は、あか牛のもつ優れた特性を生かしながら、肉質改善を最重点課題として、枝肉情報の収集、超音波検査による優良牛の選抜など育種改良事業を推進した。

登録頭数は、熊本県をはじめとし大多数の県で軒並みに減少し前年度実績を大きく下回る結果となった。しかし、青森県や岩手県などの地域で、わずかながらあか牛生産が芽生えてきたことは、暗い情勢の中での1つの光明として今後の進展に期待がかけられている。

以下は、本会が実施した事業の概要である。

## 2. 庶務関係 (省略)

## 3. 事業成績

### (1) 会員の状況

本年度の会員数は、前年比9.2%減の11,011名であった。

各道県支部別会員数は表1の通りである。

表1 各道県支部別会員数

道県別	本年度 会員数	前年度 会員数	道県別	本年度 会員数	前年度 会員数
北海道	255名	278名	長野	2名	24名
※ 青森	1	0	静岡	38	61
※ 岩手	5	0	長崎	336	379
秋田	644	721	対馬	232	182
宮城	234	199	熊本	9,264	10,275
群馬	0	6	合計	11,011	12,125

※は支部未設置県

(2) 登録事業

- ① 各道県支部別登録登記頭数は表2の通りである。
- ② 対前年比で、高等登録が53.5%減と大幅減少したのをはじめとし、特級登録6.0%減、1級登録8.5%減、2級登録11.3%減といずれの登録区分とも10%内外の減少となった。子牛登記は数字の上では幾分増加しているものの、交雑種生産への転換や妊娠牛の売却が進行していることからして、今後は大幅減少が予想されている。
- ③ 多頭飼育を奨励するために、年度内に5頭以上の登録受審をしたものに対し、登録牛多頭化奨励金(1頭1,000円)を交付した。

熊本県 8農家 50頭

表2 道県支部別登録登記頭数

道県別	高等登録	特級登録	1級登録	2級登録	子牛登記	計
北海道	0 (0)	69 (42)	583 (504)	59 (38)	850 (944)	1,561 (1,528)
秋田	0 (8)	107 (105)	84 (94)	3 (0)	1,562 (1,541)	1,756 (1,748)
宮城	0 (0)	9 (9)	41 (36)	3 (16)	454 (416)	507 (477)
群馬			0 (6)	0 (0)	0 (4)	0 (10)
長野		1 (0)	3 (9)	0 (11)	0 (45)	4 (65)
静岡	0 (0)	1 (0)	7 (26)	0 (16)	22 (100)	30 (142)
長崎	2 (0)	35 (101)	124 (172)	28 (15)	790 (929)	979 (1,217)
対馬	1 (1)	21 (15)	30 (34)	0 (2)	341 (261)	393 (313)
熊本	124 (264)	2,211 (2,341)	837 (993)	17 (26)	26,681 (25,101)	30,010 (28,725)
青森	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	3 (0)
岩手	0 (0)	1 (0)	4 (0)	0 (0)	3 (0)	8 (0)
計	127 (273)	2,455 (2,613)	1,714 (1,874)	110 (124)	30,705 (29,341)	35,111 (34,225)
前年比 %	46.5	94.0	91.5	88.7	104.6	102.6

注：( )内数字は前年度頭数、※は支部未設置県を示す。



### (3) 育種事業

- ① 国及び県が事業主体になって推進している肉用牛群改良基地育成事業に積極的に協力し、候補種雄牛の能力調査など優良種畜の選抜にあたった。
- ② 間接検定、現場検定及び一般の肥育成績を調査し、得られたデータについて分析、育種改良の基礎資料とした。
- ③ 肉質改善基礎牛の選抜及び認定  
「肉質改善基礎牛選抜規程」に基づいて、優秀なる基礎牛を選抜・認定した。
- ④ 中央審査委員会及び同小委員会  
中央審査委員会及び同小委員会を開催し、登録制度の見直し検討や、登録協会として今率先して取組むべき問題等について協議した。
  - ア. 中央審査委員会（平成3年6月26日、北海道函館市、ホリ花びし）  
同（平成3年8月23日、熊本県畜産会館）  
同（平成4年3月24日、熊本県畜産会館）
  - イ. 中央審査委員会小委員会（平成4年1月10日、熊本県畜産会館）  
同（平成4年2月28日、熊本県畜産研究所）
- ⑤ 血統の正確さを確認するために、血液型による親子鑑定を実施した。
- ⑥ 超音波測定器により肉質形質の調査及び育種改良への応用  
候補種雄牛、繁殖基礎雌牛の選抜利用法の確立のために超音波測定による肉質の診断を実施した。
- ⑦ 家畜改良体制整備事業  
登録関係データのコンピュータ処理など、改良体制整備事業（受託事業）の補完に当たった。

### (4) 普及指導事業

- ① 全国あか牛研究会の開催  
平成3年6月27～28日 北海道函館市、木古内町、大野町  
参加者 約160名
- ② 各県支部が主催した研究会、研修会等に協力すると共に、担当者を派遣

し指導に努めた。

北海道支部登録研修会、長崎県支部審査研修会、  
対馬支部登録研修会  
熊本県内各郡支部研究会、研修会、講演会

#### (5) 組織対策事業

支部の活動及び会員の各種会合等に対して協力し、組織の強化に努めた。

#### (6) 刊行事業

機関誌『あか牛』第64号を刊行した。

登録簿の刊行は、本年度は原稿づくりを行い、印刷発行は次年度に繰り越すことにした。

#### (7) 表彰事業

① 下記の各種共進会に対し、それぞれ副賞を贈呈して上位入賞牛を表彰した

北海道道南畜産共進会

秋田県畜産共進会

宮城県仙台牛共進会

東北あか牛枝肉共進会

群馬県繁殖和牛共進会

静岡県畜産共進会

対馬和牛共進会

熊本県畜産共進会

その他各種共進会、品評会、共励会

② 特別功劳牛の表彰

ア. 10頭以上生産した登録牛

イ. 1級登録又は特級登録牛を5頭以上生産した登録牛

ウ. 3頭以上の特級登録種雄牛を生産した登録牛

エ. 肉質改善基礎牛に認定された登録牛

(8) 補助事業（地方競馬全国協会補助）

① あか牛優良肉質調査ならびに交雑種肉質調査事業

あか牛の純粋種及び交雑種の産肉成績等を調査し、その成績を基に、あか牛の選抜、淘汰の情報として活用するとともに、産肉能力について検討した。

② 効率的和牛生産方式検討事業

ア．枝肉研究会、シンポジウムの開催

西日本会場（平成3年11月21～25日、福岡食肉市場、25頭）

東日本会場（同 4年2月2～4日、仙台中央食肉市場他、48頭）

(9) 受託事業

① 計画交配推進調査事業（熊本県委託）

肉用牛群改良基地育成事業の補完的な事業として、基礎雌牛の選抜、超音波測定、血統分析、繁殖成績等の特性や能力を調査し、計画交配の推進に努めた。

② 肉用牛改良情報サービス整備事業（熊本県委託）

超音波診断装置を用いて、種畜の選抜手法を確立するとともに、産肉性に関する現場情報及び超音波診断データを収集・分析し、農協、農家にフィードバックし、総合的な肉用牛の改良を推進した。

③ 家畜改良体制整備事業（家畜改良事業団委託）

登録関係データのコンピュータ処理を中心に、改良体制整備を実施した。

④ 優良肉用牛資源有効活用促進事業（全国肉用牛協会）

本年度から始まった、優良肉用牛資源有効活用促進事業（畜産振興事業団の指定事業）の中の、育種資源確保対策事業の改良増殖推進型に係る優良雌牛選定基準の策定等について事業を実施した。

# 平成4年度 事業計画

牛肉輸入自由化2年目を迎える平成4年度は、あか牛にとっては正に試練の年になりそうである。すなわち、牛肉の輸入関税の引き下げ、輸入牛肉と肉質で競合する低規格牛肉の低価格での停滞、国内経済不況による牛肉需要増の停滞等によって、昨年度中盤以降続いている子牛価格の低迷状態は、今後も継続するものと予想される。また、肉質とくに「サシ」偏重の傾向から肉用牛の品種間、雄系統間及び産地間の子牛価格の格差が拡大し、あか牛は現在不利な状況に置かれている。

このような状況に対し、国では、あか牛や日本短角種など地方特定品種について、子牛価格の異常低落による農家の不安や、生産意欲の減退を少しでも解消し資源の確保を図る目的で、緊急的な活性化対策事業を実施することを決定した。その効果が待たれるところである。

本会では、今こそ改良の重要性が問われる時であると認識を新たに、肉質向上を最重要課題として、登録事業を中心に育種改良事業や普及指導事業など、さらには先端技術の導入を含めた諸事業を推進する。

以下は主なる事業内容である。

## 1. 会員数

畜産農家の後継者不足や高齢化により、会員数は年々減少傾向にあるが、本年度は11,000名の会員数を目標として諸事業を推進する。

## 2. 登録事業

- (1) 自由化2年目を迎え関税率の10%引き下げや、子牛価格の低落状態など不安材料が多く、登録頭数の減少をくい止めることは極めて難しい状況になっている。また、交雑種への切り替えも増加していることを考えると子牛登記の大幅減少も避けられない状況になっている。

本年度は新興地域での発展の期待を含めて、次の頭数を目標とする。

高等登録	200 頭	( 127 頭 )
特級登録	2,400 頭	( 2,455 頭 )
1級登録	1,550 頭	( 1,714 頭 )
2級登録	50 頭	( 110 頭 )
子牛登記	28,000 頭	( 30,705 頭 )

注：かっこ内は前年度の実績を示す。

- (2) 多頭飼育を奨励する目的で実施している登録牛多頭化奨励金制度は、本年度も継続することとし、生産頭数10頭以上（子牛登記したもの）の繁殖農家が、年度内に5頭以上の登録受審（高等登録を含む）したものに對し、奨励金を交付する。
- (3) これまで数回にわたって検討してきた現登録制度の見直しについて、改正可能なところは次年度からの実施に向けて、本年度内に諸手続きを完了させたい。

### 3. 育種改良事業

- (1) 肉用牛群改良基地育成事業を柱とする種畜選抜事業に対しては、関係機関と連携をとりながら、優良種畜の選抜及び育種改良を推進する。
- (2) 間接検定、現場検定等の産肉能力の調査を実施し、データの分析を通して優良系統を選抜する。検定方法の見直しについても、次年度かの実施に向け成案をまとめることにする。
- (3) 肉質改善基礎牛の選抜・認定は継続実施する。
- (4) 受精卵移植、体外受精、DNA解析等の新技術についても時代に即応して取り組む。
- (5) 超音波診断により優良肉質素材牛の選抜を行い、またその産子の肥育成績と母牛の産肉能力との関係を確認、計画交配を推進する。
- (6) 血液型調査の実施。
- (7) 中央審査委員会（小委員会を含む）を開催し、育種改良及び登録制度の改革等について検討する。

- (8) 家畜改良体制整備事業を推進する。

#### 4. 普及指導事業

- (1) 全国あか牛研究会の開催。(平成4年11月、熊本県)
- (2) 各県支部、郡支部(支所)が主催する研究会、講習会等の行事には積極的に協力し、また巡回指導に努める。
- (3) 肥育管理技術の向上と平準化を目的として、先進地における技術を調査し、あか牛の肥育体系を作成する。

#### 5. 刊行事業

登録簿、機関誌「あか牛」を刊行する。

#### 6. 表彰事業

- (1) 共進会等での優秀牛の表彰と、特別功労牛の表彰を実施する。
- (2) 登録功労者、優良農家(団体)の表彰を実施する。

#### 7. 補助事業

地方競馬全国協会に対して、次の事業を補助申請する。

- (1) 効率的和牛生産方式調査検討事業

#### 8. 受託事業

熊本県、家畜改良事業団及び全国肉用牛協会に対して次の受託事業を申請する。

- (1) 計画交配推進調査事業、他2件(熊本県)
- (2) 肉用牛改良情報サービス整備事業(熊本県)
- (3) 家畜改良体制整備事業(家畜改良事業団)
- (4) 優良肉用牛資源有効活用促進事業(全国肉用牛協会)

# 平成3年度 収支計算書

収入総額 109,663,299 円

平成3年 4月 1日から

支出総額 105,721,468 円

平成4年 3月31日まで

収 入 の 部				
科 目	予 算 額 円	決 算 額 円	差 異 円	備 考
(款 項 目)				
1. 会 費	15,600,000	14,314,300	1,285,700	1,300円×11,011名
2. 登 録 料	75,620,000	73,104,400	2,515,600	
高等登録料	2,310,000	977,900	1,332,100	7,700円× 127件
特級登録料	16,605,000	15,227,400	1,377,600	12,300円× 21件
1級登録料	9,690,000	8,741,400	948,600	6,150円× 2,434件
2級登録料	360,000	396,000	△ 36,000	5,100円× 1,714件
月齡超過料	155,000	168,950	△ 13,950	3,600円× 110件
子牛登記料	46,500,000	47,592,750	△ 1,092,750	1,550円× 109件
子牛登記料			△ 1,092,750	1,550円× 30,705件
3. 証 明 料	356,000	437,550	△ 81,550	
移動証明料	250,000	404,500	△ 154,500	500円× 809件
再交付料	105,000	32,550	72,450	1,050円× 31件
書換料	1,000	500	500	500円× 1件
4. 雑 収 入	220,000	336,942	△ 116,942	
雑収入	200,000	319,742	△ 119,742	交雑証明、預金利息
刊行物頒布代	10,000	17,200	△ 7,200	
寄付金収入	10,000	0	10,000	
5. 助 成 金	6,910,000	6,705,000	205,000	地全協
6. 受 託 金	8,950,000	8,411,764	538,236	熊本県 家畜改良事業団 他
7. 積立金取崩収入	1,000,000	1,000,000	0	特別積立金より
当期収入合計 (A)	108,656,000	104,309,956	4,346,044	
前期繰越収支差額	5,353,343	5,353,343	0	
収 入 合 計 (B)	114,009,343	109,663,299	4,346,044	

支 出 の 部					
科 目		予 算 額 円	決 算 額 円	差 異 円	備 考
(款 項 目)					
1	管理事務費	32,730,000	30,256,920	2,473,080	
	1. 人 件 費	24,400,000	23,356,957	1,043,043	
	役 員 費	1,500,000	791,460	708,540	役員旅費
	職 員 給 料	12,700,000	12,574,800	125,200	専任4名 12か月分
	諸 手 当	8,000,000	7,952,440	47,560	賞与、諸手当
	福 利 厚 生 費	2,000,000	2,024,447	△ 24,447	社会保険事業主負担分
	旅 費 交 通 費	200,000	13,810	186,190	
	2. 事 務 費	5,330,000	4,632,411	697,589	
	備 品 費	200,000	0	200,000	
	消 耗 品 費	250,000	134,266	115,734	事務用品代
	通 信 運 搬 費	500,000	459,874	40,126	
	印 刷 費	100,000	89,600	10,400	
	事 務 機 リー ス 料	600,000	524,321	75,679	コンピュータ、コピー代
	賃 借 料	1,210,000	1,205,352	4,648	事務所、駐車場
	光 熱 水 料 費	240,000	133,634	106,366	
	車 輛 費	200,000	40,962	159,038	
	租 税 公 課	600,000	522,200	77,800	消費税他
	保 険 料	80,000	62,600	17,400	
	負 担 金	450,000	450,000	0	中畜、肉用牛協会 技術協会他
	雑 費	900,000	1,009,602	△ 109,602	
	3. 会 議 費	3,000,000	2,267,552	732,448	
	役 員 会 費	1,500,000	941,038	558,962	
	総 会 費	1,500,000	1,326,514	173,486	
2	事 業 費	23,460,000	19,933,988	3,526,012	
	1. 登 録 事 業 費	1,500,000	1,117,946	382,054	
	審 査 費	100,000	22,400	77,600	
	証 明 書 発 行 費	400,000	247,200	152,800	
	審 査 委 員 会 費 及 び 専 門 委 員 会 費	800,000	798,346	1,654	
	多 頭 化 推 進 費	200,000	50,000	150,000	奨励金として交付



2	育種改良事業費	1,500,000	237,515	1,262,485	
	育種事業推進費	500,000	14,362	485,638	
	血液型検査推進費	300,000	37,080	262,920	
	改良調査費	200,000	0	200,000	
	産肉性調査推進費	500,000	186,073	313,927	
3.	普及事業費	2,600,000	2,017,549	582,451	
	全国ユウ研究会費	1,000,000	1,055,727	△ 55,727	
	普及推進費	400,000	475,418	△ 75,418	
	研究会講習会費	400,000	86,180	313,820	
	宣伝費食糧費	400,000	338,724	61,276	
	支部連絡指導費	200,000	61,500	138,500	
	中央連絡業務費	200,000	0	200,000	
4.	刊行事業費	900,000	720,000	180,000	
	登録簿刊行費	100,000	0	100,000	
	機関誌刊行費	700,000	720,000	△ 20,000	
	会報発行費	100,000	0	100,000	
5.	褒賞費	600,000	582,760	17,240	
6.	補助事業費	7,410,000	6,705,743	704,257	
	優良肉質調査及び交雑種調査費	3,750,000	3,748,330	1,670	地方競馬全国協会
	効率的和牛生産方式調査検討事業	3,660,000	2,957,413	702,587	地方競馬全国協会
7.	受託事業	8,950,000	8,552,475	397,525	
	計画交配推進調査費	2,000,000	1,989,000	11,000	熊本県
	肉用牛改良情報システム整備事業	1,900,000	1,900,000	0	熊本県
	改良体制整備費	1,700,000	1,656,711	43,289	家畜改良事業団
	肉用牛優良資源活用促進事業	3,350,000	3,006,764	343,236	全国肉用牛協会
3.	支部交付金	53,663,300	52,530,560	1,132,740	
	会費支部交付金	5,400,000	4,928,500	471,500	
	登録料支部交付金	48,010,000	47,259,160	750,840	
	証明料支部交付金	253,300	342,900	△ 89,600	

4. 積立金	1,000,000	1,000,000	0	
職員退職給与 積立金	800,000	800,000	0	
減価償却積立金	200,000	200,000	0	
5. 繰入金支出	2,000,000	2,000,000	0	創立40周年記念事業 特別会計へ繰入れ
6. 予備費	1,156,043	0	1,156,043	
当期支出合計 (C)	114,009,343	105,721,468	8,287,875	
当期収支差額 (A)-(C)	△ 5,353,343	△ 1,411,512	△ 3,941,831	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	3,941,831	△ 3,941,831	

# 平成4年度 収支予算書

収入総額 102,457,831 円

平成4年 4月 1日から

支出総額 102,457,831 円

平成5年 3月31日まで

収 入 の 部				
科 目	予 算 額 円	前年度予算額 円	差 異 円	備 考
(款 項 目)				
1. 会 費	14,300,000	15,600,000	△ 1,300,000	1,300円×11,000名
2. 登 録 料	67,940,000	75,620,000	△ 7,680,000	
高等登録料	1,540,000	2,310,000	△ 770,000	7,700円× 200件
特級登録料	14,760,000	16,605,000	△ 1,845,000	6,150円× 2,400件
1級登録料	7,905,000	9,690,000	△ 1,785,000	5,100円× 1,550件
2級登録料	180,000	360,000	△ 180,000	3,600円× 50件
月齢超過料	155,000	155,000	0	1,550円× 100件
子牛登記料	43,400,000	46,500,000	△ 3,100,000	1,550円× 28,000 件
3. 証 明 料	3,456,000	356,000	3,100,000	
移動証明料	250,000	250,000	0	500円× 500件
再交付料	105,000	105,000	0	1,050円× 100件
嘗換料	1,000	1,000	0	500円× 2件
交雑証明料	3,100,000	0	3,100,000	1,550× 2,000件
4. 超音波検査料	500,000	0	500,000	500円× 1,000件
5. 雑 収 入	220,000	220,000	0	
雑 収 入	200,000	200,000	0	
刊行物頒布代	10,000	10,000	0	
寄付金収入	10,000	10,000	0	
6. 助 成 金	3,150,000	6,910,000	△ 3,760,000	地全協
7. 受 託 金	8,950,000	8,950,000	0	熊本県 家畜改良事業団
8. 積立金取崩収入	0	1,000,000	△ 1,000,000	特別積立金より
当期収入合計 (A)	98,516,000	108,656,000	△ 10,140,000	
前期繰越収支差額	3,941,831	5,353,343	△ 1,411,512	
収 入 合 計 (B)	102,457,831	114,009,343	△ 11,551,512	

支 出 の 部				
科 目 (款 項 目)	予 算 額 円	前年度予算額 円	差 異 円	備 考
1. 人 件 費	24,900,000	24,400,000	500,000	
役 員 費	1,500,000	1,500,000	0	役員旅費
職 員 給 料	12,900,000	12,700,000	200,000	専任4名 12か月分
諸 手 当	8,200,000	8,000,000	200,000	賞与、諸手当
福 利 厚 生 費	2,100,000	2,000,000	100,000	社会保険事業主負担分
旅 費 交 通 費	200,000	200,000	0	
2. 事 務 費	5,930,000	5,330,000	600,000	
備 品 費	200,000	200,000	0	
消 耗 品 費	250,000	250,000	0	事務用品代
通 信 運 搬 費	500,000	500,000	0	
印 刷 費	100,000	100,000	0	
事 務 機 器 リ ー ス 料	600,000	600,000	0	コンピュータ、コピー機代
賃 借 料	1,210,000	1,210,000	0	事務所、駐車場
光 熱 水 料 費	240,000	240,000	0	
車 輛 費	200,000	200,000	0	
租 税 公 課	1,200,000	600,000	600,000	消費税他
保 険 料	80,000	80,000	0	
負 担 金	450,000	450,000	0	中畜、肉用牛協会 技術協会他
雑 費	900,000	900,000	0	
3. 会 議 費	2,000,000	3,000,000	△ 1,000,000	
役 員 会 費	1,000,000	1,500,000	△ 500,000	
総 会 費	1,000,000	1,500,000	△ 500,000	
2 事 業 費	17,200,000	23,460,000	△ 6,260,000	
1. 登 録 事 業 費	1,000,000	1,500,000	△ 500,000	
審 査 費	100,000	100,000	0	
証 明 書 発 行 費	400,000	400,000	0	
審 査 委 員 費 及 び 専 門 委 員 会 費	400,000	800,000	△ 400,000	
多 頭 化 推 進 費	100,000	200,000	△ 100,000	奨励金として交付

2	育種改良事業費	1,000,000	1,500,000	△	500,000	
	育種事業推進費	300,000	500,000	△	200,000	
	血液型検査推進費	200,000	300,000	△	100,000	
	改良調査費	200,000	200,000		0	
	産肉性調査推進費	300,000	500,000	△	200,000	
3.	普及事業費	1,700,000	2,600,000	△	900,000	
	全国加齢研究会費	600,000	1,000,000	△	400,000	
	普及推進費	300,000	400,000	△	100,000	
	研究会講習会費	400,000	400,000		0	
	宣伝費食糧費	300,000	400,000	△	100,000	
	支部連絡指導費	100,000	200,000	△	100,000	
	中央連絡業務費	0	200,000	△	200,000	
4.	刊行事業費	800,000	900,000	△	100,000	
	登録簿刊行費	100,000	100,000		0	
	機関誌刊行費	700,000	700,000		0	
	会報発行費	0	100,000	△	100,000	
5.	褒賞費	600,000	600,000		0	
6.	補助事業費	3,150,000	7,410,000	△	4,260,000	地方競馬全国協会
	優良肉質調査及び交雑種調査費	0	3,750,000	△	3,750,000	
	効率的和牛生産方式調査検討事業	3,150,000	3,660,000	△	510,000	
7.	受託事業	8,950,000	8,950,000		0	
	計画交配推進調査費	2,000,000	2,000,000		0	熊本県
	肉用牛改良情報サービス整備費	1,900,000	1,900,000		0	熊本県
	改良体制整備費	1,700,000	1,700,000		0	家畜改良事業団
	肉用牛優良資源活用促進事業	3,350,000	3,350,000		0	全国肉用牛協会

3. 支部交付金	50,840,000	53,663,300	△ 2,823,300	
会費支部交付金	5,000,000	5,400,000	△ 400,000	
登録料支部交付金	43,540,000	48,010,000	△ 4,470,000	
証明料支部交付金	2,300,000	253,300	2,046,700	
4. 積立金	600,000	1,000,000	△ 400,000	
職員退職給与積立金	500,000	800,000	△ 300,000	
減価償却積立金	100,000	200,000	△ 100,000	
5. 繰入金支出	0	2,000,000	△ 2,000,000	創立40周年記念事業特別会計へ繰入れ
6. 予備費	987,831	1,156,043	△ 168,212	
当期支出合計 (C)	102,457,831	114,009,343	△ 11,551,512	
当期収支差額 (A)-(C)	△ 3,941,831	△ 5,353,343	1,411,512	
次期繰越収支差額(B)-(C)	0	0	0	

(注) 1. 借入金の最高限度額は300万円



このコーナーは、各地の話題を「あか牛 HOT NEWS」として紹介しています。あか牛に関することならどんなことでも構いません。どしどし「HOT NEWS」をお寄せください。

熊本日日新聞  
平成 4 年 5 月 30 日  
朝刊

優良種雄牛 2 頭が誕生

あか牛 高肉質化へ本格供給

県農研センター

肉質の優れた種雄牛の研究、開発を進めている菊池郡合志町の県農研センター（後藤久敏所長）は、このほど高肉質の子牛を生

産する、あか牛の育成に成功した。優良種雄牛の精液を農家へ本格供給し、輸入牛肉よりランクの高い

鶏（じげつる）で、ともろに昭和六十一年十二月生まれ。同センターで産肉能力検査を続けてきた結果、一

日当たり約十万円は上昇する。農家全体では、十億円以上の増収につながる」と試算している。

「光育成したあか牛は、二重面積とも他の種雄牛よりも

---

優れ、肉質のポイントとなる脂肪交雑（BMS）も多

いことがわかった。また、この二頭から生産された子牛は、輸入肉を上回る肉質が八一九割を占めた。

同センターでは今後、週二回精液を抽出し、農家に供給。二頭から年間一万頭の子牛を生産する計画。肉質の検定結果からすると、

「わかみ号」  
**赤牛**

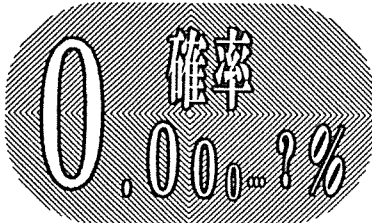
波野村

# 4度目の双子を出産

阿蘇郡波野村新波野の農家入剛さん（61歳）が飼育している赤牛の「わかみ号」（11歳）がこのほど、四回目の双子を出産。畜産関係者は「ホルモン剤投与などもなく、双子を四回も出産するのは極めて珍しい。生産性の面でも素晴らしい」と、その多産ぶりを称賛している。

## 特別功勞表彰も

「わかみ号」は日本おか「昭和五十八年の初産から九牛登録協会の一級登録牛。一年間で九回妊娠し、十三頭



の子牛を出産。特に六十年からは三年連続で双子を産んでいる。十月四日出産したのは雄と雌で、体重はそれぞれ約三〇キ。午後四時ごろから、家人さんの立ち会いで約四時間かけて出産した。

菊池郡合志町の県畜産研究所によると、赤牛が双子を出産する確率は〇・二三％（約五百分の一）。「わかみ

号」のように、四回出産する確率は小数点以下ゼロがいくつも並ぶことになるという。

熊本市にある日本おか牛登録協会も「双子の四産は聞いたことがない」と非常に驚いた様子。同協会では「阿蘇畜産農業共同組合の推薦があれば、特別功勞牛として表彰したい」と話している。

県阿蘇農業改良普及所の那須利八畜産係長も「遺伝的確率の珍しさもさることながら、経済的な貢献度に関しても非常に優れた牛といえる。赤牛の放牧適性が十分生かされた結果」と、「わかみ号」の功績に喜んでいる。

輸入自由化などの影響で子牛の価格が低迷、畜産経営を断念する農家も多いなか、「私は丑（うし）年生まれて牛が大好き。命の

続く限り（畜産を）続けたい」と家人さんも興奮気味だ。

熊本日日新聞

平成4年10月13日

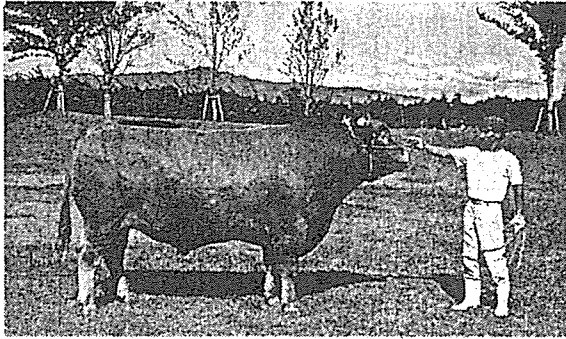
朝刊

9年間で13頭の子牛を産んだ「わかみ号」と家入さん。今回の双子も元気に成育中





受精卵移植を応用して開発された優良種雄牛の「光重E.T.」



# 受精卵移植で優良種牛

全 国  
2 例 日

県は十八日、あか牛として初めて受精卵移植技術（E.T.）を応用した優良種雄牛の開発に成功した、と発表した。従来に比べ開発期間の大幅な短縮が可能で、あか牛の品質向上の早期化が期待される。E.T.を使った種雄牛開発は、鹿児島県の黒牛に次いで全国二例目。

## 開発期間を大幅短縮

べる必要があるため、約五十カ月の開発期間がかかった。

しかし、ホルモン注射で排卵数を増やした雌牛に人工授精し、この受精卵を他の雌牛に移植するE.T.では一度に十一、四十頭を生産できる。うち一頭を種雄牛候補にし、肉質は残りの牛を解体して調べる。候補の子牛は解体しないですむため、開発期間が三十二カ月程度に短縮できるといふ。

県は今回、開発した種雄牛を「光重E.T.」と名付け、今春から農家へ精子の供給を始める方針。

「光重E.T.」は従来の種雄牛のE.T.と格とされる「第十光丸」と比べ、一日当たりの体重増加はほぼ同じだが、ロースやサシの入りなど肉質がよく、県の試験では子牛は肉質等級3（並み）以上が九三%を占め、県平均を二二%も上回るといふ。

県は「年間五千頭分ぐらいを母牛との適性を見ながら交配させていきたく、県全体で約三億円の収益向上を見込んでい

あか牛 品質向上に期待

# 牛の育種改良情報

## 農家に無償で提供

来月から県農研センター

### 高品質牛、安定生産へ

県農業研究センターは種雄牛や雌牛の能力をデータベース化して最適な掛け合わせなどを予測する「肉用牛改良情報システム」を開発、二月一日から農家への情報提供を開始する。輸入自由化以降、価格低迷に悩む県産牛の品質向上策の一環で、国内では初の本格的な牛の育種改良情報システム。

同システムには畜協や農協を通じて入手した繁殖用雌牛六万頭、枝肉一万頭分の血統や肉質のデータを入力。このデータを基に種雄牛や雌牛の遺伝的な能力を評価し、雌牛一頭ごとに種雄牛との交配結果を予測する仕組み。

今後、年間五千頭分の枝肉データを集め、情報の精度を高めるとともに農協、畜協などを通じて、分析結果を農家に対して無償で提供していく。

県は肉用牛の品質向上に向けて優秀な種雄牛の開発を中心に取り組んできた

が、一層の向上を図るには雌牛の改良も迫られている。しかし、雌牛に関するデータは各生産団体が個々に所有、枝肉データが繁殖農家に提供されることもなかったため、雌牛の改良は遅れていた。

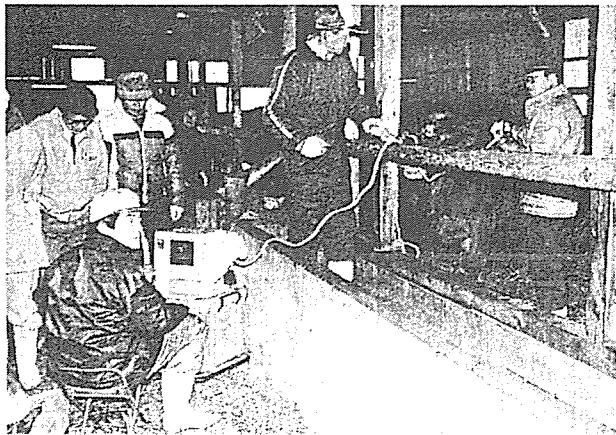
県は「枝肉データの提供

で農家は雌牛の能力評価もできるようになるので、システム導入によって優秀な雌牛への更新が進み、高品質牛の安定生産が期待できる。四、五年先には粗生産額ベースで約四十億円のアップが見込める」と話している。

熊本日日新聞

平成5年1月30日

朝刊



超音波を使って牛の肉質などを調べる日本あか牛登録協会の職員ら

熊本日日新聞  
平成5年2月10日  
朝刊

# 生きてまま肉質判定

## 波野村が価格アップ作戦

### 全戸対象に赤牛を超音波測定

赤牛の価格低迷に悩む阿蘇郡波野村は、肉質を改良し牛肉の価格アップを図ろうと、超音波による牛の測定の開始した。これまで、

赤牛の価格低迷に悩む阿蘇郡波野村は、肉質を改良し牛肉の価格アップを図ろうと、超音波による牛の測定の開始した。これまで、

### 交配に利用

### 品質向上へ

が、自治体が畜産農家全戸を対象に実施したのは初めて。八日から三日間の日程で、村内の赤牛約三百頭を測定している。同村の畜産農家戸数は約百七十戸。牛の飼育頭数は約八百頭で、その大半が子牛生産を目的とした繁殖牛。測定には「スリーパー・アイ・ミート」と呼ばれる超音波測定機を利用。牛の肩部分に超音波を発する探触子を当てると、モニターに牛の体の断面が映し出され、画像が即座にプリントされる。牛をと殺することなく、肉の付き具合やしもふりの状態が分かる。同協会の尾玉一宏登録課長によると、牛の肉質は主に繁殖牛（母牛）に起因する。このため、測定結果を利用して計画的に交配させれば、肉質の向上が図れるという。村では三月にも残り約五百頭の測定を実施。官民一体で子牛の価格アップ、農家の経営安定を目指す。

◎ あか牛子牛市況

(4年1月～)

道県別	開催年月日	市場名	性別	頭数	最高価格	最低価格	平均価格	平均体重
北海道	4.10.10	札幌大野市場	めす	232	269,860	43,260	152,959	268
	12ヶ月未満		おす	6	230,720	140,080	178,362	270
			去勢	308	351,230	74,160	214,116	277
	4.10.10	札幌大野市場	めす	82	462,470	25,780	104,733	464
	12ヶ月以上		去勢	18	471,740	115,390	223,453	431
秋田県	4.2.24	山本	めす	31	462,470	233,510	330,098	302
			去勢	42	439,810	241,020	356,700	318
	25	北秋田	めす	69	456,290	101,970	279,145	301
			去勢	72	425,390	110,210	291,590	326
	4.22	北秋田	めす	76	413,030	99,910	257,608	308
	23		去勢	86	581,950	81,370	301,323	340
	24	山本	めす	43	387,280	160,680	292,975	300
			去勢	64	400,670	214,240	315,711	325
	6.23	山本	めす	50	354,320	167,890	242,833	299
			去勢	48	468,650	216,300	357,002	332
	24	北秋田	めす	54	466,590	118,450	297,861	323
			去勢	58	459,380	139,050	351,248	338
8.24	北秋田	めす	46	333,720	118,450	232,063	302	
		去勢	58	375,950	119,480	253,487	331	
25	山本	めす	39	345,050	167,890	244,849	295	
		去勢	54	388,310	182,310	288,743	323	
10.22	山本	めす	39	370,800	199,820	276,410	289	
		去勢	28	442,900	214,240	359,617	311	
23	北秋田	めす	52	380,070	86,520	281,863	297	
24		去勢	71	461,440	159,650	311,684	328	
12.14	北秋田	めす	35	338,870	74,160	186,342	284	
		去勢	56	386,250	88,580	223,308	315	
15	山本	めす	64	349,170	134,930	233,005	286	
		去勢	56	398,610	181,280	290,938	295	
長崎県	4.2.12	島原	めす	72	379,040	138,020	236,327	298
			去勢	94	423,330	123,600	314,938	337
	3.6	対馬	めす	79	276,040	148,320	215,204	281
	おす		1	247,200			365	
		去勢	80	399,640	98,880	248,242	314	
長崎県	5.12	島原	めす	64	380,070	123,600	248,841	306
			去勢	79	475,860	141,110	323,485	347

長 崎 県	7. 6	対馬	めす 去勢	54 79	253,380 370,800	155,530 55,620	210,062 259,142	293 320
	7.12	島原	めす 去勢	57 68	329,600 417,150	120,510 175,100	221,215 303,259	310 341
	9.12	島原	めす 去勢	42 79	305,910 442,900	108,150 58,710	219,463 265,374	305 323
	11. 6	対馬	めす 去勢	53 59	260,590 369,770	110,210 63,860	161,962 215,304	282 304
	11.12	島原	めす 去勢	54 79	303,850 341,960	107,120 108,150	217,330 246,874	310 337
熊 本 県	4. 1.17 ・ 18	阿蘇	めす おす 去勢	342 2 383	482,040 570,620 466,590	174,070 563,410 118,450	273,931 567,015 340,004	292 355 305
	28 29	城北 山鹿	めす 去勢	341 405	824,000 515,000	73,130 142,140	259,470 329,541	293 310
	2. 4 ・ 6	南阿蘇	めす おす 去勢	364 6 435	735,420 618,000 502,640	139,050 244,110 120,510	261,487 524,785 342,490	291 269 306
	9	小国	めす 去勢	84 80	395,520 411,870	126,690 108,150	227,041 324,012	265 284
	18 19	球磨	めす 去勢	388 467	408,910 447,020	105,060 108,150	225,220 274,320	292 306
	20 ・ 21	矢部	めす おす 去勢	261 3 281	628,300 567,530 425,390	76,220 39,140 103,000	221,119 234,497 285,317	282 268 300
	3. 3	下益城	めす おす 去勢	137 2 171	578,860 566,500 420,240	21,630 556,200 56,650	247,260 561,350 315,619	280 300 302
	17 ・ 18	阿蘇	めす おす 去勢	363 2 432	639,630 257,500 484,100	14,420 172,010 31,930	257,460 214,755 307,731	292 232 322
	28 29	城北 菊池	めす 去勢	312 349	581,950 465,560	52,530 103,000	229,392 285,139	291 314
	4. 4 ・ 6	南阿蘇	めす おす 去勢	377 4 444	629,330 654,050 443,930	78,280 149,350 86,520	225,911 502,125 300,381	292 271 310
	9	小国	めす おす 去勢	102 1 95	315,180 194,670 557,230	110,210 — 162,740	205,060 — 287,054	264 228 284
	18 ・ 19	球磨	めす おす 去勢	362 2 378	632,420 193,640 497,490	110,210 133,900 96,820	212,410 163,770 278,939	297 354 315

熊	5. 8 9	球 磨	めす 去勢	267 254	537,660 389,340	82,400 64,890	192,992 246,061	275 294	
	17 18	阿 蘇	めす 去勢	387 466	419,210 511,910	49,440 61,800	225,482 291,673	294 312	
	4. 5.19 20	矢 部	めす 去勢	264 277	477,920 385,220	55,620 108,150	196,687 285,797	293 315	
	28 ・ 29	菊 池	めす おす 去勢	360 2 452	669,500 607,700 432,600	10,300 181,280 47,380	229,538 394,490 302,911	296 273 325	
	6. 3	下益城	めす おす 去勢	146 1 152	444,960 468,650 467,620	86,520 — 108,150	235,340 — 327,336	292 293 318	
	4 6	南阿蘇	めす 去勢	440 540	547,960 451,140	80,340 107,120	232,075 321,335	291 315	
	9	小 国	めす 去勢	108 106	463,500 414,060	99,910 124,630	225,722 313,381	266 294	
	7. 8 9	球 磨	めす 去勢	392 388	679,800 402,730	48,410 69,010	196,536 241,434	289 306	
	17 18	阿 蘇	めす 去勢	465 535	402,730 458,350	72,100 59,740	225,574 292,081	326 318	
	19	矢 部	めす おす 去勢	192 1 229	386,250 95,790 362,560	45,320 — 86,520	194,734 — 273,332	284 278 305	
	28 29	城 北 山鹿	めす 去勢	311 325	463,500 518,090	109,180 103,000	222,420 289,199	298 323	
	本	8. 3	小 国	めす おす 去勢	88 1 93	362,560 582,380 403,760	113,300 — 113,300	184,615 — 274,722	269 195 297
4 ・ 6		南阿蘇	めす おす 去勢	448 3 562	680,830 566,500 459,330	44,290 87,550 61,800	219,884 276,726 297,532	286 261 304	
9. 3		下益城	めす おす 去勢	104 1 142	475,860 576,800 409,940	128,750 — 74,160	225,292 — 283,017	287 300 299	
8 9		球 磨	めす 去勢	339 375	370,800 365,650	83,430 110,210	198,046 231,563	282 301	
17 ・ 18		阿 蘇	めす おす 去勢	425 1 464	461,440 107,120 502,640	58,710 — 108,150	226,260 — 283,094	293 373 314	
4. 9.19		矢 部	めす おす 去勢	151 1 184	345,050 575,770 396,550	72,100 — 115,360	198,278 — 260,008	273 338 288	
県		9. 3	下益城	めす おす 去勢	104 1 142	475,860 576,800 409,940	128,750 — 74,160	225,292 — 283,017	287 300 299
		8 9	球 磨	めす 去勢	339 375	370,800 365,650	83,430 110,210	198,046 231,563	282 301
		17 ・ 18	阿 蘇	めす おす 去勢	425 1 464	461,440 107,120 502,640	58,710 — 108,150	226,260 — 283,094	293 373 314
		4. 9.19	矢 部	めす おす 去勢	151 1 184	345,050 575,770 396,550	72,100 — 115,360	198,278 — 260,008	273 338 288
	9. 3	下益城	めす おす 去勢	104 1 142	475,860 576,800 409,940	128,750 — 74,160	225,292 — 283,017	287 300 299	
	8 9	球 磨	めす 去勢	339 375	370,800 365,650	83,430 110,210	198,046 231,563	282 301	
	17 ・ 18	阿 蘇	めす おす 去勢	425 1 464	461,440 107,120 502,640	58,710 — 108,150	226,260 — 283,094	293 373 314	

熊 本 県	28 ・ 29	城 北 菊池	めす おす 去勢	296 1 356	638,600 566,500 422,300	83,430 <u>          </u> 126,690	253,237 <u>          </u> 309,243	294 280 313
	10. 4 ・ 6	南阿蘇	めす おす 去勢	339 3 444	635,510 607,700 458,350	64,890 207,030 95,790	235,812 345,050 307,450	287 308 301
	9	小 国	めす 去勢	100 114	355,350 368,740	99,910 147,290	208,843 287,261	278 303
	11. 8 ・ 9	球 磨	めす おす 去勢	337 3 397	397,580 138,020 389,340	44,290 92,700 84,460	187,576 107,807 234,308	281 286 297
	17 ・ 18	阿 蘇	めす おす 去勢	381 4 422	578,860 519,120 484,100	65,920 104,030 61,800	232,544 327,025 299,795	296 316 309
	19	矢 部	めす おす 去勢	206 1 225	341,960 157,590 409,940	46,350 <u>          </u> 65,920	211,205 <u>          </u> 286,015	276 261 292
	28 ・ 29	城 北 菊池	めす おす 去勢	296 1 349	875,500 624,180 413,030	56,650 <u>          </u> 103,000	222,800 <u>          </u> 278,979	292 315 316
	12. 3	下益城	めす 去勢	130 147	589,160 387,280	94,760 140,080	218,408 266,301	279 302
	4 ・ 6	南阿蘇	めす おす 去勢	372 1 460	628,300 638,600 455,260	54,590 <u>          </u> 128,750	222,726 <u>          </u> 321,507	281 280 297
9	小 国	めす 去勢	86 103	315,180 383,160	94,760 96,820	181,220 250,600	262 279	







# 肉用牛統計

資料：(平成 4.2.1現在 農林水産省統計情報部)

	飼養戸数	対3年比	飼養頭数			一戸当り 頭数	飼養頭数 対元年比
			内(肉用種)	内(乳用種)			
全 国	210,100	95.0	2,898,000	1,815,000	1,083,000	13.8	103.3
北海道	4,750	102.6	378,600	114,600	264,000	79.7	113.5
青森	2,750	94.2	60,300	29,900	30,400	21.9	102.0
岩手	23,800	97.1	165,600	130,700	34,900	7.0	102.2
宮城	15,000	96.8	113,900	91,800	22,100	7.6	102.2
秋田	5,900	94.9	51,700	44,700	6,990	8.8	97.9
山形	4,170	92.5	53,800	38,500	15,300	12.9	97.8
福島	13,600	93.8	106,200	74,200	32,000	7.8	100.3
茨城	2,930	95.8	57,700	35,000	22,700	19.7	105.5
栃木	3,410	93.2	102,500	43,300	59,200	30.1	100.1
群馬	2,450	90.7	69,800	21,100	48,700	28.5	97.4
埼玉	410	97.6	27,700	2,900	24,800	67.6	103.4
千葉	840	96.6	45,400	13,000	32,500	54.0	97.0
東京	80	100.0	3,000	1,080	1,920	37.5	95.5
神奈川	370	102.8	7,090	2,420	4,670	19.2	98.2
新潟	1,400	91.5	25,800	11,600	14,200	18.4	98.5
富山	140	93.3	7,200	2,200	5,000	51.4	96.4
石川	240	100.0	5,770	2,070	3,700	24.0	103.0
福井	120	100.0	5,530	2,170	3,370	46.1	94.4
山梨	320	91.4	11,600	5,610	5,990	36.3	97.5
長野	2,610	90.3	55,300	31,000	24,300	21.2	98.0
岐阜	1,740	91.6	39,700	28,600	11,100	22.8	101.0
静岡	670	95.7	37,700	7,980	29,700	56.3	99.2
愛知	920	95.8	60,200	15,700	44,500	65.4	102.2
三重	480	96.0	29,300	19,500	9,820	61.0	101.7
滋賀	230	95.8	21,600	9,100	12,500	93.9	100.5
京都	440	95.7	8,770	6,810	1,960	19.9	102.5
大阪	90	112.5	3,380	1,500	1,870	37.6	97.4
兵庫	5,620	94.1	65,500	45,400	20,200	11.7	99.5
奈良	140	87.5	3,810	1,780	2,030	27.2	103.0
和歌山	210	87.5	7,720	2,370	5,350	36.8	93.3
取根	2,670	92.4	27,100	16,500	10,600	10.1	99.3
岡山	7,640	94.6	44,400	35,200	9,190	5.8	102.5
山梨	3,680	91.8	39,200	21,000	18,200	10.7	102.3
広島	4,240	92.6	36,900	24,200	12,800	8.7	96.9
山口	2,280	90.5	22,600	15,900	6,680	9.9	100.0
徳島	1,270	95.5	37,800	11,900	25,800	29.8	99.0
香川	1,210	90.3	30,300	14,900	15,400	25.0	100.0
愛媛	1,140	90.5	29,000	12,100	16,900	25.4	100.7
高知	1,150	89.1	10,500	8,520	1,980	9.1	99.1
福岡	500	89.3	31,800	10,900	20,900	63.6	101.3
佐賀	2,140	98.6	54,200	42,900	11,300	25.3	103.8
長崎	10,200	95.3	90,500	76,700	13,900	8.9	104.1
熊本	12,200	91.7	144,900	99,100	45,800	11.9	101.8
大分	6,740	96.3	71,700	57,000	14,700	10.6	102.0
宮崎	21,800	95.2	233,800	204,400	29,400	10.7	104.0
鹿児島	31,500	95.7	307,500	275,000	32,600	9.8	104.8
沖縄	4,030	103.6	53,500	52,200	1,260	13.3	122.7

注：肉用種とは、乳用種を除くすべての肉用牛をいう。

第 65 号

平成 5 年 1 月 20 日 印刷

平成 5 年 1 月 30 日 発行

編 集 川 崎 広 通

日本あか牛登録協会

熊本市桜木6丁目3番54号

畜産会館内

T E L (096) 365-7900

F A X (096) 365-7901

〒861-21

印 刷 者

村 嶋 農志郎

印 刷 所

村 嶋 印 刷

熊本市小山町 4 2 3

T E L (380) 7 0 9 5

〒862